

報告資料 3

令和6年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価の結果について

1 目的

- ・各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ること。
- ・各学校が、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明・公表により、保護者、地域住民から自らの教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- ・教育委員会が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 スケジュール

- | | |
|--------|------------------------|
| 4月 | 学校経営重点計画（教育推進計画）の作成・公表 |
| 7月～9月 | 自己評価（中間）の実施、学校評議員への報告 |
| 11月 | 児童・生徒、保護者アンケートの実施 |
| 12月～1月 | 自己評価（年度末）の実施 |
| 2月～3月 | 学校関係者評価の実施 |
| 3月 | 指導課への評価結果の提出 |

3 各学校の評価結果

別紙による

4 評価結果を受けて

- ・取組指標と成果指標は同じ評価であった学校が全体の52%であった。取組指標が成果指標より上回る学校が28%であり、取組指標が成果指標より下回る学校が20%であった。
- ・コロナ禍前の取組をそのまま実施するのではなく、時間短縮や精選等を行って、同様の教育効果を得られるような工夫を継続して行っている。
- ・WEB-QU分析による学級経営やタブレットの効果的な活用、SNSルールや情報モラルなど、ICTに関する取組を多くの学校が実施することで、デジタル化の推進を図った。
- ・学校関係者評価では概ね肯定的な評価をいただいているが、各学校がより向上するために取り組むべき課題について、保護者や学校を支える地域の方の視点から貴重なご意見をいただいた。
- ・年度末評価の結果を今年度の教育課程に活かすとともに学校経営重点計画（教育推進計画）の立案を行う。

学校教育目標	◎よく考える子 ◎思いやりのある子 ◎健康で明るい子	ビジョン	【目指す学校像】	○子供たちが、安全・安心に楽しく過ごせる学校 ○家庭・地域と共にある学校 ○子供たちが、学ぶ喜びを実感できる学校
			【目指す児童・生徒像】	○自ら考え、主体的に学ぶ子供 ○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子供 ○心身ともに健康で、活力のある子供
			【目指す教師像】	○人権感覚を磨き、子供を大切にする教師 ○常に向上心をもち、指導力の向上に努める教師 ○公務員としての自覚をもち、信頼される教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的な方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力	学ぶ楽しさを実感できる授業改善の推進 日常の指導の充実	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着	○指導と評価の一体化した授業 ○タブレット端末を活用した授業実践 ○学力調査の結果の分析及び授業改善推進プランの作成・実行 ○めあてを明確にし、振り返りを確実に行う授業	4 4項目全て取り組むことができた	4	90%以上の児童が授業が分かること回答	4	○児童は評価のポイントを伝えることで、目指す姿を共有した。 ○タブレット端末を活用した授業を行ったが、時間配分に課題が残った。 ○指導と評価の一体化を目指した授業に取り組んだ。定着が不十分な際はすぐに授業改善に取り組んだ。 ○評価内容(項目)明確ではなかった。 ○基礎的・基本的な学習内容の定着に取り組んだ。	○基礎的・基本的な学習内容の定着に取り組んだことは評価できる。 ○タブレット端末の効果的な活用方法について研究する。 ○タブレット端末を使った授業を計画的に行う。 ○振り返りの時間を十分に確保する。 ○日々の児童の評価を欠かさず記録する。	A	○ループリック評価を取り入れ、自己評価する機会を増やす。 ○タブレット端末の効果的な活用方法について研究する。 ○タブレット端末を使った授業を計画的に行う。 ○振り返りの時間を十分に確保する。 ○日々の児童の評価を欠かさず記録する。	
				3 3項目は取り組むことができた	3	80%~90%未満の児童が授業が分かること回答						
				2 2項目は取り組むことができた	2	70%~80%未満の児童が授業が分かること回答						
				1 1項目は取り組むことができた	1	70%未満の児童が授業が分かること回答						
		読書に関する指導や 読書の習慣化への取組を日常化した読書活動の充実	○朝読書の計画的な取組 ○読書月間の取組の充実 ○図書支援員の有効活用 ○授業での図書資料の活用	4 4項目全て取り組むことができた	4	95%以上の児童が30分間以上の読書をしている回答	1	○支援員の協力で、ふだん読まないような本にも関心をもつ児童がいた。 ○授業に図書資料を計画的に取り入れた。 ○朝読書の時間を確実に行なった。	○文字離れが進む中、朝読書の徹底を確実に行なったことは評価できる。 ○図書の時間より十分な確保で静かに読書できる環境整備を行う。 ○紙のよさでもらんあるが、タブレット端末に図書アプリを入れるのは可燃性。 ○読書月間・週間に児童の興味・関心を高める取り組みを行う。 ○家庭での読書の習慣化定着のために保護者会等で情報共有を行い連携・協力して行う。	B	○調べて学習の手段として図書資料をより活用できるようにする。 ○図書の時間より十分な確保で静かに読書できる環境整備を行う。 ○紙のよさでもらんあるが、タブレット端末に図書アプリを入れるのは可燃性。 ○読書月間・週間に児童の興味・関心を高める取り組みを行う。 ○家庭での読書の習慣化定着のために保護者会等で情報共有を行い連携・協力して行う。	
				3 3項目は取り組むことができた	3	85%~90%未満の児童が30分間以上の読書をしている回答						
				2 2項目は取り組むことができた	2	80%~85%未満の児童が30分間以上の読書をしている回答						
				1 1項目は取り組むことができた	1	80%未満の児童が30分間以上の読書をしている回答						
		多様性に応じた指導、インクルーシブ教育の推進	○校内委員会の充実 ○大空教員と連携 ○ユニーク・サーザインを意識した環境づくり ○個に応じた教材・教具の工夫	4 4項目全て取り組むことができた	4	90%以上の児童が授業にすすんで取り組んでいる回答	4	○全員が同じ課題に取り組んだり、考えたりできたことは評価できる。 ○ねらいの焦点化を図ることで、全員が同じ課題に取り組んだり、考えたりできた。 ○個に応じた座席の配慮、教材の作成を特別支援教室や他の教員と相談を行った。 ○個別の教育支援計画・指導計画に基づき内容を取り返し改善を図った。 ○観察教材の使用、指導の明確化等の工夫をして授業づくりをした。	○全員が同じ課題に取り組んだり、考えたりできたことは評価できる。 ○工夫された方策が形になって表れていると思う。引き続き力をこめてほしい。 ○情報と共有して1対1の対応ではなく、複数で対応していることが分かった。	A	○研究と連携付けて、授業でのユニーク・サーザインへの知見を高めていく。 ○特別支援教室や家庭との情報共有を確実に行なう。 ○個に応じた指導の準備のための時間を確保するためにスケジュール管理をしっかりと行う。 ○担任と特別支援教員との連携、児童への支援・観察を充実させる。	
				3 3項目は取り組むことができた	3	80%~90%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいる回答						
				2 2項目は取り組むことができた	2	70%~80%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいる回答						
				1 1項目は取り組むことができた	1	70%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいる回答						
豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いの中で、児童の内面を育てる道徳的な指導の実践	道徳全体計画、年間計画の見直しと特別の教科「道徳」の授業改善と充実	○教職員同士による授業参観 ○道徳的価値や内容を明確にし、児童の姿勢を見取る ○年間指導計画の確実な実施 ○全教育活動を通じた道徳教育の実施	4 4項目全て取り組むことができた	4	90%以上の児童が自分や友達を大切にしている回答	4	○教科書以外の教材を生かした授業づくりを積極的に行なったことはよい事例である。 ○授業を参考できなかった。 ○OJTで学んだことを道徳科の授業で実践した。	○教科書以外の教材を生かした授業づくりを積極的に行なったことはよい事例である。 ○他の学級や学年、他校への参観の時間をしっかり確保できる環境づくりにより一層努めほしい。 ○個人の意見を否定することなく他の意見を受け入れて考えている。その場だけなく少しずつ生活に生かせている。	A	○板書や話合いの仕方の工夫をさらに広げていく。 ○OJTの時間を工夫する。 ○様々な教員の授業を計画的に参観する。	
				3 3項目は取り組むことができた	3	85%~90%未満の児童が自分や友達を大切にしている回答						
				2 2項目は取り組むことができた	2	80%~85%未満の児童が自分や友達を大切にしている回答						
				1 1項目は取り組むことができた	1	80%未満の児童が自分や友達を大切にしている回答						
		いじめの未然防止と早期発見、早期対応を推進し、安全で安心な学校の実現	○毎学期のアンケートを生かし、スクールカウンセラーや専門機関と連携し、いじめ・不登校の実現 ○迅速かつ確実な情報共有による組織的な対応	4 アンケート実施後の個別対応100%	4	不登校(傾向を含む)人数0人	4	○アンケート等で得た情報を校内で共有し、どのように対応すべきか管理職等と相談して対応した。	○保護者にスクールカウンセラーや専門機関との相談を勧めた。 ○スクールカウンセラーや専門機関との相談が参考になった。 ○アンケートの聞き取りから個別対応を行なった。	○いじめに関してアンケート等を活用して対応したのは、よい方法だと思われる。 ○今年度同様に引き続き初期対応を迅速に行なう。 ○外部機関との連携を強める。 ○特別支援教育コーディネーターとの情報共有を密にし、校内の児童の実態を把握し、専門的な助言を行なう。	A	○学級経営の中で互いを認め合う風土をさらに強固にする。 ○今年度同様に引き続き初期対応を迅速に行なう。 ○外部機関との連携を強める。 ○特別支援教育コーディネーターとの情報共有を密にし、校内の児童の実態を把握し、専門的な助言を行なう。
				3 アンケート実施後の個別対応95%	3	1人						
				2 アンケート実施後の個別対応90%	2	2人						
				1 アンケート実施後の個別対応85%	1	3人						
		学校行事等を通して異学年間の交流を深め、豊かな人間性の育成	○交流体験活動の実施 ○実践的体験活動の実施 ○栽培体験学習の実施 ○縦割り班活動の充実	4 4項目全て取り組むことができた	4	90%以上の児童が学校が楽しいと回答	3	○縦割り班活動でいろいろな学年と交流ができる。 ○保育園との交流が児童にとってよい経験になった。 ○栽培体験学習が十分に行なえなかった。 ○学校行事における異学年交流の充実に努めた。	○保育園との交流が児童の生活に生かされていると思われる。 ○異学年交流はできていると思うが、楽しめている児童がどの程度いるか不明。 ○少子化と言われる現代で様々な年齢の人たちと関わることが小さい頃からできる試みはすてきだと思う。	A	○栽培体験学習の計画を年度始めに立てる。 ○学校行事における異学年交流は積み重ねが必要なので継続していく。 ○縦割り遊びの遊びのバリエーションを増やす。	
				3 3項目は取り組むことができた	3	80%~90%未満の児童が学校が楽しいと回答						
				2 2項目は取り組むことができた	2	70%~80%未満の児童が学校が楽しいと回答						
				1 1項目は取り組むことができた	1	70%未満の児童が学校が楽しいと回答						
健やかな体	様々な運動を体験させて、その特性に触れた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励	○休み時間の外遊びの奨励 ○運動に親しやすい環境整備 ○運動会を活用した児童の運動への興味・関心の向上	4 毎週児童たちと一緒に遊び時間の確保3回以上	4	90%以上の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答	2	○子供と一緒に遊び機会・時間を設けている。 ○個別の対応、委員会の指導等で十分に遊び時間を確保できなかった。 ○担任の教員が休み時間に児童と一緒に遊んでいる学級は外に出で遊び児童が増えている。 ○可能なら児童と外で一緒に遊びようにしている。	○児童と一緒に遊びるのは、よいことだと思う。 ○先生方の体を使った努力が、十分に見て取れた。今後も頑張ってほしい。 ○若干意識を軽減しながら、楽しんで体を動かせる機会が増えればよいと思う。	A	○委員会活動で外で遊び取組を増やす。 ○個別の対応が必要な児童も含めて遊び時間を確保する。 ○外遊びへの声掛けを継続していく。	
				3 2回	3	80%~90%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答						
				2 1回	2	70%~80%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答						
				1 0回	1	70%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答						
		年間を通した体力向上への取組(「元気アップガイドブック」等の活用)	○「元気アップガイドブック」の活用及び「グッドモーニング60分」への取組 ○運動の特性を生かす学年別体育授業改善 ○めあてが明確な学習の展開 ○オリンピック・パラリンピック大会後のレガシーを生かした取組	4 4項目全て取り組むことができた	4	90%以上の家庭が体力向上に満足と回答	1	○子供たちが楽しんでみて達成できる体育の授業づくりを心掛けている。 ○振り返りで児童の学習意欲を高めた。 ○休み時間に教材の練習をしている児童の支援をし意欲や技術の向上に努めた。 ○元気アップガイドブックを十分に活用できなかった。 ○家庭での過ごし方についてチェックリストを活用し、支援を行なった。	○成果指標よりも実際はよいのではないかと思う。 ○子供たちが楽しんでみて達成できるように努力していると思う。 ○元気い事			

学校教育目標	○ 助け合う子 ○ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	【目指す学校像】	○児童が、「学びの実感」「協働意識」「心と体の元気」を感じる学校 ○児童が、自己決定しながら「なりたい自分」を目指せる学校
		ビジョン 【目指す児童・生徒像】	○学ぶ楽しさを知り、自己調整しながら学ぶ子ども ○自他を大切にし、しなやかに、共に伸びようとする子ども ○心と体に関心をもち、たくましく生きようとする子ども ○「なりたい自分」を目指し、自己決定ができる子ども
		【目指す教師像】	○温かな教育をする教師 ○子どもを信じ、子供の思いを大切にする教師 ○共成小の教育に貢献する教師 ○マネジメントできる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が主体的に学ぶ学習者中心の授業改善により、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体化的な充実を図る。	教師の「ファシリテーション力」UP	・児童に委ねる覚悟 ・学び方の指導 ・導入の工夫 ・見通し・ゴールの明確化	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 すんで学習に取り組む…9割以上 3 すんで学習に取り組む…8割以上 2 すんで学習に取り組む…7割以上 1 すんで学習に取り組む…7割未満	3	9割に惜しくも届かなかったが、意欲的な児童の姿が、データより読み取ることができる。	意欲的な児童が多くてよい。自己評価の低い児童及び教職員の自己肯定感アップを期待したい。	B	授業の明確な見通しをもたらす、自己評価の低い児童に寄り添いファシリテーション力を向上させる。
			「自己選択・自己決定」で児童の学習意欲向上	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 学習していることが分かる…9割以上 3 学習していることが分かる…8割以上 2 学習していることが分かる…7割以上 1 学習していることが分かる…7割未満	4	児童の自己評価が高い状況が続いている。引き続き、意欲を高め、学力向上へ向けて取り組んでいく。	自己決定して成功体験できしたことから、学習をもつとしたいという意欲が高くなっていることが読み取れる。	A	「自己選択・自己決定」の学習場面をさらに増やすことで児童の学習意欲を向上させる。
			「振り返り」の工夫・充実で学びの自覚へ	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 学習したことをしっかりと振り返っている…9割以上 3 学習したことをしっかりと振り返っている…8割以上 2 学習したことをしっかりと振り返っている…7割以上 1 学習したことをしっかりと振り返っている…7割未満	3	8割程度の教員が3項目取り組んでおり、教員の意識の高まりが振り返りの成果指標に反映している。	振り返りをする工夫にICTの活用と授業の構成に意欲的に取り組んだ成果がみられる。	B	一人一人のことを考えた指導の工夫から、振り返りの時間を大切にし、次につながるようにさせる。
豊かな心	児童が自尊感情をもち、「安心基地(安心な環境)」の中で、自他を大切にしながら協働できる学校を創る。	全ての児童にとっての「安心基地・居場所」づくり	・SOSの出し方指導 ・いじめの防止・早期解決 ・相談しやすい環境 ・個別の配慮・支援	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 学校で安心して学習・生活できている…8割以上 3 学校で安心して学習・生活できている…7割以上 2 学校で安心して学習・生活できている…6割以上 1 学校で安心して学習・生活できている…6割未満	4	教員の意識、児童の評価とともに高まっている。今後も継続して安心基地となることができるようしていく。	全体的に落ち着いていてとてもよい。安心できないと思っている児童の理解が、さらに必要である。	A	WEBQUの結果を生かし児童の実態をより理解して、安心して学習できる環境づくりに努めていく。
			互いに認め合い、自他を尊重する人権感覚の醸成	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 自分も相手も大切にしている…9割以上 3 自分も相手も大切にしている…8割以上 2 自分も相手も大切にしている…7割以上 1 自分も相手も大切にしている…7割未満	4	児童の自己評価が9割を超えている。日常の学校での活動で繰り返し指導している成果が表れできている。	振り返りをする工夫にICTの活用と授業の構成に意欲的に取り組んだ成果がみられる。	A	児童がすんで考えて行動できる機会を増やし、自他ともに大切にする心を育てていく。
			他者とつながり、協働する喜びの実感	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 みんなと一緒に活動するのが楽しい…9割以上 3 みんなと一緒に活動するのが楽しい…8割以上 2 みんなと一緒に活動するのが楽しい…7割以上 1 みんなと一緒に活動するのが楽しい…7割未満	4	児童の評価は高いが教員の評価は低い。より高いレベルを求めているとも捉えることができるため、更なる活動の充実を図ていきたい。	挨拶を協力し合って日常的に交流できる喜びを感じる活動が充実するよう正在している様子がわかる。	A	行事の実行委員を全学年の代表が行ったり、異学年で休み時間遊んだりと他者とつながる場面を多く取り入れる。
健やかな体	児童が自分の「心と体の元気」を感じながら、体力向上と健康について考え、実践する態度を育む。	運動する楽しさの実感と日常的な運動遊びの充実と体育授業改善	・運動遊びの充実 ・元気アップガイドブック活用 ・共成サークルなどの取組 ・体育授業の専門性向上	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 体力が付いてきている実感…9割以上 3 体力が付いてきている実感…8割以上 2 体力が付いてきている実感…7割以上 1 体力が付いてきている実感…7割未満	4	項目によっての取組の達成度の違いがある。元気アップガイドブックと共にサークルで通じては、今後も周知と共通理解を促進させる必要がある。	学校外の活動でも学年間わず、仲が良い。低学年は特に元気よく挨拶することができている。	A	体力テストで児童の課題を把握し、運動を楽しみながら体力向上できるように指導を工夫する。
			望ましい生活習慣と安全な生活のための実践的態度の育成	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目取り組むことができた。 2 全教員が2項目取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	2	4 望ましい生活習慣が身に付いている…8割以上 3 望ましい生活習慣が身に付いている…7割以上 2 望ましい生活習慣が身に付いている…6割以上 1 望ましい生活習慣が身に付いている…6割未満	4	児童の多くは、望ましい生活習慣や安全な生活ができると評価しており、教員の意識も高まっている。	家庭によって様々な考え方もあり、連携も大変だと思われる。安心安全な学校環境をこれかも期待したい。	A	毎月の安全指導や避難訓練を徹底し、保護者会等で生活習慣に関しては呼びかけていく。
			しなやかで折れない心(レジリエンス)の醸成	4 全教員がハビネスマインドを意識した心のもち方を指導した。 3 9割の教員がハビネスマインドを意識した心のもち方を指導した。 2 8割の教員がハビネスマインドを意識した心のもち方を指導した。 1 7割の教員がハビネスマインドを意識した心のもち方を指導した。	3	4 困ったときに前向きな気持ちをもてる…8割以上 3 困ったときに前向きな気持ちをもてる…7割以上 2 困ったときに前向きな気持ちをもてる…6割以上 1 困ったときに前向きな気持ちをもてる…6割未満	4	レジリエンスについては、児童の評価と職員の評価には差がある。今後も日々の生活の中で自尊感情を高め、レジリエンスを育んでいく。	心を回復させる力は、いつも笑顔と優しい言葉かけができるように繰り返し向けることが大切だと感じた。	A	命の教室などの出前授業を通して、心のもち方を学び、教員と児童ともに前向きな言葉掛けを心がける。
輝く未来	認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己の良さを実感し、自己決定しながら、「なりたい自分」を目指す学校を創る。	児童が主体性に学校や学級をよりよくしようとする力の育成	・一人一人の活躍の場 ・学級会活動の充実 ・主体性を發揮できる行事 ・共成会議、実行委員	4 全教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 3 9割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 2 8割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 1 7割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。	3	4 学校や学級で役に立っている…8割以上 3 学校や学級で役に立っている…7割以上 2 学校や学級で役に立っている…6割以上 1 学校や学級で役に立っている…6割未満	4	児童の多くは、自分が学校や学級の役に立てていると感じている。教員側の取組による成果が表れている。	児童一人一人が自分の役割を自覚しながら行動できることはすばらしいと思う。	A	主体性を実感できる行事で、実行委員一人一人の活躍する場を設け、児童の自己有用感を高めていく。
		温かく、共感的な人間関係に支えられた望ましい学級集団づくり	・ルールや規律の徹底 ・挑戦できる学級風土 ・QU結果の効果的活用 ・SGE、SST、PAの活用	4 全学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 3 9割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 2 8割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 1 7割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。	3	4 クラスは楽しい…9割以上 3 クラスは楽しい…8割以上 2 クラスは楽しい…7割以上 1 クラスは楽しい…7割未満	4	児童の多くの学級が楽しいと感じている。WEBQUで気になる児童の結果分析も参考にできていると思われる。	クラスの楽しいという評価はすばらしい。子供たちのアイディアで運動会の種目を決めるることはよい。	A	QUの結果を活用した学級経営研修を実施し、理解を深めたうえで、学級を支えていくようにする。
		「なりたい自分」の実現に向け、自己選択・自己決定できる力の向上	・キャリアパスポートの活用 ・自己選択の場の設定 ・成功体験の積み上げ ・主体的行動への環境整備	4 全教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値づけた。 3 9割の教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値づけた。 2 8割の教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値づけた。 1 7割の教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値づけた。	3	4 自分で決めて行動できる…8割以上 3 自分で決めて行動できる…7割以上 2 自分で決めて行動できる…6割以上 1 自分で決めて行動できる…6割未満	4	多くの学級で自ら行う目標設定や振り返りを行っている。今後もキャリアパスポートを活用して継続的に行っていく。	振り返りができる余裕が自分で行動できる、決定できる力を、後押しできていると感じる。	A	自己選択し、自身を振り返り、次時の目標を立てるという見通しをもてるように、授業を組み立っていく。

学校教育目標	○ よく考える子ども ○ けんこうな子ども ○ すんで働く子ども ○ 思いやりのある子ども	ビジョン	【目指す学校像】	職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校
			【目指す児童・生徒像】	未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供
			【目指す教師像】	児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に臆することなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子の育成	主体的に学びに向かう力の涵養とともに、学習習慣の確立	「学びのすすめ」「自主学習ノート」「寺子屋」の推進等、授業と家庭学習との連携強化	4 寺子屋…実施回数90%以上 3 寺子屋…実施回数80%以上 2 寺子屋…実施回数70%以上 1 寺子屋…実施回数70%未満	4	4 学年×10分の家庭学習…90%以上 3 学年×10分の家庭学習…80%以上 2 学年×10分の家庭学習…70%以上 1 学年×10分の家庭学習…70%未満	3	○推進プラン改善充実 ●自主学習の推進	生活習慣の乱れが、家庭学習の定着を阻害しているのではないか。	B	[自主学習ノート]と[学びのすすめ]を核として、学習習慣を定着させる。
				4 教科でのICT活用…90%以上の授業 3 教科でのICT活用…80%以上の授業 2 教科でのICT活用…70%以上の授業 1 教科でのICT活用…70%未満の授業		4 診断シート正答数半数未満…10%未満 3 診断シート正答数半数未満…20%未満 2 診断シート正答数半数未満…30%未満 1 診断シート正答数半数未満…30%以上		○個別最適な学び ●板書構成の工夫改善			
				4 探究ノートの活用…年20回以上 3 探究ノートの活用…年10回以上 2 探究ノートの活用…年5回以上 1 探究ノートの活用…年5回未満		4 主題的に課題解決…90%以上 3 主題的に課題解決…80%以上 2 主題的に課題解決…70%以上 1 主題的に課題解決…70%未満		○主体的な学びの充実 ●新たな価値の創造			
				4 異学年活動…実施率90%以上 3 異学年活動…実施率80%以上 2 異学年活動…実施率70%以上 1 異学年活動…実施率70%未満		4 社会通念上のいじめ…0～5件 3 社会通念上のいじめ…6～15件 2 社会通念上のいじめ…16～30件 1 社会通念上のいじめ…31件以上		○穏やかな学校生活 ○自己有用感が向上			
			個性を生かし、相互の信頼関係を深め、自己有用感の醸成	4 コグトレ…実施率90%以上 3 コグトレ…実施率80%以上 2 コグトレ…実施率70%以上 1 コグトレ…実施率70%未満	4	4 認知機能の向上…90%以上の児童 3 認知機能の向上…90%以上の児童 2 認知機能の向上…70%以上の児童 1 認知機能の向上…70%未満の児童	4	○自他を認め合う意識 ○コグトレが多彩に充実	コグトレの積み重ねや学校行事を通して、心の交流が充実している。	B	認知-感情統制-対人スキル等、社会性を[コグトレ]で育成する。
				4 考え議論する道徳…実施率90%以上 3 考え議論する道徳…実施率80%以上 2 考え議論する道徳…実施率70%以上 1 考え議論する道徳…実施率70%未満		4 自分事として考える…80%以上の児童 3 自分事として考える…70%以上の児童 2 自分事として考える…60%以上の児童 1 自分事として考える…60%未満の児童		○心が安定している ○思いやりの心が醸成			
				4 新しい生活様式に基づき、人の命を守る意識と行動力の育成	4	4 病欠児童…1日の平均0～3人 3 病欠児童…1日の平均4～7人 2 病欠児童…1日の平均8～11人 1 病欠児童…1日の平均12人以上	3	○感染防止の徹底 ●スマホ依存増加傾向	スマホ利用時間が極端に長く、生活習慣に支障が生じている。	B	[ノースマホデー]など、スマホやゲーム依存の対策を講じていく。
				4 基礎的な体力の向上と生涯に渡り運動に親しむ資質能力の向上		4 運動することが楽しい…90%以上の児童 3 運動することが楽しい…80%以上の児童 2 運動することが楽しい…70%以上の児童 1 運動做的事情が楽しい…70%未満の児童		○運動習慣が改善 ●元気UP活用充実			
健やかな体	基礎的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身共に健康で活力に満ちた子の育成	様々な欲求やストレス等に對して、適切に対処できる力の醸成	自殺防止授業の他、全学年で「SOSカード」を活用した多様な対処方法を推進	4 学級外の児童支援…90%以上の教員 3 学級外の児童支援…80%以上の教員 2 学級外の児童支援…70%以上の教員 1 学級外の児童支援…70%以上の未満	4	4 大人に相談できる…90%以上の児童 3 大人に相談できる…80%以上の児童 2 大人に相談できる…70%以上の児童 1 大人に相談できる…70%未満の児童	4	○ストレスゼロ学校生活 ○ふじみスマイル効果	ふじみスマイルの設置で、安心できる居場所がまた一つ増えた。	B	[学年担任制]など、すべての子供にとって学校が安心できる場所とする。
				4 読書感想文「[調べっこ]」[思索コン]などのつながりを重視する		4 言語能力向上…80%以上の児童 3 言語能力向上…70%以上の児童 2 言語能力向上…60%以上の児童 1 言語能力向上…60%未満の児童		○図書館の活用充実 ○語り合い活動の充実			
				4 調べる学習コンクール参加等、家庭や地域と連携・協働した自己実現への手立ての充実		4 論理的思考力向上…80%以上の児童 3 論理的思考力向上…70%以上の児童 2 論理的思考力向上…60%以上の児童 1 論理的思考力向上…60%未満の児童		○探究ノートの改善 ○探究学習の深化			
				4 調べる学習コン指導…100%の学級	4	4 主題的に探究…80%以上の児童 3 主題的に探究…70%以上の児童 2 主題的に探究…60%以上の児童 1 主題的に探究…60%未満の児童	4	○縦割り班活動の充実 ○各種賞の上位入賞	秀でている子供たちの成果が認められ、全体に波及している。	B	[未知の課題に対峙する力]を育成する機会を意図的に設定していく。
				3 調べる学習コン指導…90%以上の学級		4 調べる学習コン指導…80%以上の学級		○各種賞の上位入賞			
				2 調べる学習コン指導…80%以上の学級		2 調べる学習コン指導…80%以上の学級		○各種賞の上位入賞			
				1 調べる学習コン指導…80%未満の学級		1 調べる学習コン指導…80%未満の児童		○各種賞の上位入賞			

学校教育目標	○しっかり考える子(問題解決力) ○心やさしい子(人間関係形成力) ○つよく元気な子(体力・活力)	ビジョン	【目指す学校像】	○児童にとって充実した学校 ○保護者にとって信頼できる学校 ○教職員にとって働きがいのある学校
			【目指す児童・生徒像】	○思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども ○感性あふれる豊かな心をもつ子ども ○すすんで心と体を鍛えることができる子ども
			【目指す教師像】	○ありのままの児童を受け止め、個性を發揮させる教師 ○授業で勝負できる教師 ○家庭・地域との相互理解を深め協働できる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	○基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに主体的・対話的で深い学びによる授業改善を目指す。	○授業の中で学ぶ楽しさを味わい、主体的に学習する態度の育成を図る。	○児童が主体的に学習に励み、3つの資質能力の育成を図れるよう問題解決能力の育成を図る。	4 「全教員がアンケートを実施した。 3 80%~100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%~80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 アンケート調査で70%以上の児童が肯定的な回答をしている。 3 アンケート調査で70%未満~60%の児童が肯定的な回答をしている。 2 アンケート調査で60%未満~50%の児童が肯定的な回答をしている。 1 アンケート調査で50%未満の児童が肯定的な回答をしている。	4	各教科の基礎基本の定着に向けた授業改善及び教育課程の見直しを行い、子供たちの学習環境を整えることにより、校内研究の成果と課題を見直し、主体的に学習に取り組めるよう授業改善に努める。	1学期に比べ低下している学年が見受けられるが、概ね満足できる状況になってきている。今後も授業改善を推進してほしい。	A	今年度の学力テストの結果を各学年分析し、成果と課題を共有する。そして学校全体の実態を把握し、次年度の校内研究の内容や主題につなげるとともに、主体的に学びに向け児童の育成を目指した授業改善につなげていきたい。
			○ICTを活用した授業を充実させ、児童の「情報活用能力」の育成を図る。	4 「全教員がアンケートを実施した。 3 80%~100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%~80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 90%以上の児童がタブレットを活用している。 3 80%~90%未満の児童がタブレットを活用している。 2 70%~80%未満の児童がタブレットを活用している。 1 70%未満の児童がタブレットを活用している。	3	年度途中と年度末に結果を比較できるように、2学期中にアンケートを実施し、児童の実態を把握できるようにしたり、教員間でもICT活用情報伝達研修会を開催したりした。	ICTの活用能力がこれから児童にとって必要になるため、今後も推進してほしい。また、低学年段階での活用方法についても明確にしてほしい。	B	年度はじめにICT主任を中心に行なう「子供たちに身に付けてほしいICT操作能力」の共通理解を図る。また、年間指導計画に「身に付けてほしい力」を入れ込み、意図的・計画的な指導を行えるようにする。
			○読書活動の推進と言語能力の育成に向け、学校司書及びボランティアが連携し、子供たちの読書活動の一層の推進を行う。	4 「各学級で図書室を月4回以上使用した。 3 「各学級で図書室を月3回以上使用した。 2 「各学級で図書室を月2回以上使用した。 1 「各学級で図書室を月1回以下使用した。	2	4 90%以上の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 3 80%~90%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 2 70%~80%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 1 70%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。	3	図書主任や図書館支援員が担任と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指したり、読書のイベントを企画したりし、年間を通して読書に関する教育活動を実施していく。	読書離れがあるため、今後もデジタルだけでなく紙媒体の書籍に触れる機会を継続してつくれほしい。また、時間の確保も再考してほしい。	B	図書主任や図書館支援員の働きかけだけでなく、国語科を要として、年間指導計画の中に図書室の利用と関連させる単元を入れたり、他教科との連携を図つたりして図書のさらなる活用を目指したい。
			○児童の自己肯定感を高め、常に相手のことを考え行動することができるようにする。	4 「全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 3 80%~100%の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 2 70%から80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 1 70%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	4	4 90%以上の児童が自己肯定感があると感じている 3 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている 2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている 1 自己肯定感があると感じている児童が60%未満だった	3	各学年のアンケート結果から児童の実態をつかみ、改善策を見出し、教員同士で各学年の実態を共有する場を定期的に設けている。また、子供の課題や悩みに応じて個別に面談を開いたり、保護者と情報共有をしている。	自己肯定感を高めるために、積極的に保護者と面談を行う等、連携を密にしてほしい。	B	夏休み中の個人面談の共通伝達事項として、学級満足度調査の実施結果を設定する。また、保護者と連携し、児童一人一人の課題改善に対応できるよう個人面談や保護者会、お便り等の連携体制を整え、学校と家庭との積極的に協力を図る。
豊かな心	○相手の気持ちを想像し、人との関わりを大切にできる豊かな心を育成する。	○道徳科を道徳教育の要の時間と位置付け、教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	○教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、教科横断的な視点で各教科にて、計画的・発展的に行なうようにする。	4 「すべての教員が各教科と連携付け、道徳教育を行った。 3 「各教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、教科横断的な視点で各教科にて、計画的・発展的に行なうようにする。	4	4 95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た 3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た 2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た 1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった	3	各学年のアンケート結果から児童の実態をつかみ、改善策を見出し、教員同士で各学年の実態を共有する場を定期的に設けている。また、子供の課題や悩みに応じて個別に面談を開いたり、保護者と情報共有をしている。	児童が自己肯定感を高めるために、積極的に保護者と面談を行う等、連携を密にしてほしい。	A	児童が自己の生き方についての考えを深められるよう家庭や地域社会との連携を図っていく。また集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成を図れるよう教育課程を編成していく。
			○いじめを許さない心を育て、いじめの早期発見解決に努める。	4 「全教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 3 80%~100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 2 70%~80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	4	4 学級生活満足群が50%以上 3 学級生活満足群が40%以上 2 学級生活満足群が30%以上 1 学級生活満足群が30%以下	3	校内研究と連携させ、2回の結果から数値による分析をし、各学年間で情報共有をしたり、具体的な改善策を検討したりする。結果を児童や保護者にフィードバックできるよう準備を進めている。	重要な課題であると考える。改善策を検討するだけでなく、早期に対応し、当該の方々にフィードバックして見守りを強化してほしい。	B	生活指導主任を中心に行なう「学校生活アンケート」や「家庭生活アンケート」を行っていく。そして「じめの原因となるものや子供たちの悩みを早期に発見し、早期に解決できるよう、アンケートを高く学校全体で見守る体制を続けていく。
			○児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	4 「全教員が計画を活用した指導を行った。 3 80%~100%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 2 70%~80%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った	4	4 調査結果が昨年比平均ポイントから+2ポイント以上 3 調査結果が昨年比~+2ポイント 2 調査結果が昨年比-2ポイント以内 1 調査結果が昨年比-2ポイント以下	2	年間を通して運動委員が体力向上プロジェクトとして体力テストの測定や、長なわ、短なわの取組を企画・運営し、全校児童が体を動かすきっかけを与えることができた。次年度は体力テストの結果にも結び付くよう検討を進めていく。	運動と健康は生涯にわたって関わることだと考える。ダンスを取り入れるなどして、体を動かすことの楽しさを伝え続けてほしい。	B	年度はじめに前年度の体力テストの結果を教員間で共通理解をする場と時間を設定する。そして、体育主任を中心に行なう体力や学年の実態に応じた課題を共有する場を設定し、改善に努める。
			○規則正しい生活と健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	4 「全教員が計画的な指導を実施した。 3 80%から100%未満の教員が計画的に指導した。 2 70%から80%未満の教員が計画的に指導した。 1 70%未満の教員が計画的に指導した	4	4 90%以上の児童が目標を達成している 3 80%~90%未満の児童が目標を達成している 2 70%~80%未満の児童が目標を達成している 1 70%未満の児童が目標を達成している	2	生活指導部と養護教諭を中心に、年間指導計画の確実な実施を心掛けた。すまいるカードの取組を通じて、結果や取組に関する内容を記載したお便りを全校に配布をし、家庭でも重要性を発信する。	規則正しい生活については、家庭の役割が大きいため、今後はより啓発に取り組んでほしい。	B	生活指導部と養護教諭を中心に、すまいるカードの取組を通して、結果や取組に関する内容を記載したお便りを全校に配布する。また、家庭にも重要性を発信するだけでなく、子供たちへも養護教諭を中心に健康教育を進めていく。
健やかな体	○自分の心と体の健康に関心をもち、基礎的な体力と心身の育成と向上を図る。	○食に関する望ましい食習慣の形成を促進する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 「全教員が食育計画を活用した指導を行った。 3 80%~100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 2 70%~80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	4	4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している 3 80%~90%未満の児童が食育のめあてを達成している 2 70%~80%未満の児童が食育のめあてを達成している 1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している	3	2学期のお弁当の日の取組状況から、児童の食育のめあてに対する達成度が90%以上と分かった。栄養士と食育担当を中心に、さらに充実を図っていく。	食は、生活の根本であるため、今後も継続して「食べること」の指導を充実してほしい。	A	お弁当日の日の取組や「お弁当チャレンジカード」を通して、だれもがお弁当作りに関われる機会を設定する。また、食への興味関心を高められるよう高学年での家庭科の学習とも連携させながら食育を進めていきたい。
			○児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	4 「全教員が計画を活用した指導を行った。 3 80%~100%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 2 70%~80%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った	4	4 調査結果が昨年比平均ポイントから+2ポイント以上 3 調査結果が昨年比~+2ポイント 2 調査結果が昨年比-2ポイント以内 1 調査結果が昨年比-2ポイント以下	2	年間を通して運動委員が体力向上プロジェクトとして体力テストの測定や、長なわ、短なわの取組を企画・運営し、全校児童が体を動かすきっかけを与えることができた。次年度は体力テストの結果にも結び付くよう検討を進めていく。	運動と健康は生涯にわたって関わることだと考える。ダンスを取り入れるなどして、体を動かすことの楽しさを伝え続けてほしい。	B	年度はじめに前年度の体力テストの結果を教員間で共通理解をする場と時間を設定する。そして、体育主任を中心に行なう体力や学年の実態に応じた課題を共有する場を設定し、改善に努める。
			○規則正しい生活と健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	4 「全教員が計画的な指導を実施した。 3 80%から100%未満の教員が計画的に指導した。 2 70%から80%未満の教員が計画的に指導した。 1 70%未満の教員が計画的に指導した	4	4 90%以上の児童が目標を達成している 3 80%~90%未満の児童が目標を達成している 2 70%~80%未満の児童が目標を達成している 1 70%未満の児童が目標を達成している	2	生活指導部と養護教諭を中心に、年間指導計画の確実な実施を心掛けた。すまいるカードの取組を通じて、結果や取組に関する内容を記載したお便りを全校に配布をし、家庭でも重要性を発信する。	規則正しい生活については、家庭の役割が大きいため、今後はより啓発に取り組んでほしい。	B	生活指導部と養護教諭を中心に、すまいるカードの取組を通して、結果や取組に関する内容を記載したお便りを全校に配布する。また、家庭にも重要性を発信するだけでなく、子供たちへも養護教諭を中心に健康教育を進めていく。
			○食に関する望ましい食習慣の形成を促進する。	4 「全教員が食育計画を活用した指導を行った。 3 80%~100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 2 70%~80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	4	4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している 3 80%~90%未満の児童が食育のめあてを達成している 2 70%~80%未満の児童が食育のめあてを達成している 1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している	3	2学期のお弁当の日の取組状況から、児童の食育のめあてに対する達成度が90%以上と分かった。栄養士と食育担当を中心に、さらに充実を図っていく。	食は、生活の根本であるため、今後も継続して「食べること」の指導を充実してほしい。	A	お弁当日の日の取組や「お弁当チャレンジカード」を通して、だれもがお弁当作りに関われる機会を設定する。また、食への興味関心を高められるよう高学年での家庭科の学習とも連携させながら食育を進めていきたい。
輝く未来	○子供たちが自立し、未来社会を切り開くための資質能力を身に付け、多様な人との関わりの中でコミュニケーション能力の育成を図る。	○幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	○幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	4 「全教員が方策を実施した。 3 80%~100%未満の教員が方策を実施した。 2 70%~80%未満の教員が方策を実施した。 1 70%未満の教員が方策を実施した	4	4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる 3 80%~90%未満の児童が安心して進級・進学できる 2 70%~80%未満の児童が安心して進級・進学できる 1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる	3	キャリアアルバムでは、各学期の始めと終わりにそれぞれの行事の始めと終わりに目標や振り返りを書き、子供たちの成長を記録して積み重ねができる、年々定着してきている。	地域の方々をより活用したり、異年齢交流をしたりして自分と違う立場の方との交流を通して考えを深めてほしい。	B	幼保・小中の引き継ぎと連携を教員同士が密にしていくだけでなく、幼稚園保育園の小学校見学や6年生による中学校見学など、子供たち自身が交流したり見学したりする場を今後も設定していく。
			○教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	4 「全学年の教員が交流体験を実施した。 3 80%~100%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 2 70%~80%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した	4	4 90%以上の児童が目標を達成している 3 80%~90%未満の児童が目標を達成している 2 70%~80%未満の児童が目標を達成している 1 70%未満の児童が目標を達成している	3	全学年が文化やスポーツなどについて外部人材と交流体験を行なうことができた。	地域の方やスポーツ団体を積極的に活用していくよかったです。今後も外部の方々との交流を企画してほしい。	A	児童の実態に合わせ、ゲストティーチャーを招いた授業や地域の方々と交流できる活動を引き継ぎ行なってきたい。また6年生のTGGのように海外の方とも交流できる機会を増やしていきたい。

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	ビジョン	【目指す学校像】	・子供たちにとって学びがいのある学校 ・教職員にとって働きがいのある学校
			【目指す児童・生徒像】	・心身共に健康な児童 ・創造性に富んだ児童 ・人間として調和のとれた児童
			【目指す教師像】	・人権感覚が豊かな教師 ・創造性に富んだ教師 ・チームを意識した協調性のある教師 ・絶えず研究と修養に励む教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的な方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	「分かること・できることが楽しい」 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う。	主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすんで学習に取り組む児童を育成する。	授業において、児童相互の学び合い活動を取り入れ、すすんで学習に取り組ませる授業を実践する。	4 目標を効果的に達成するために児童相互の学び合い活動を実践…70%以上の教員	3	4 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…70%以上の児童	3	特に、「課題把握(めあて)」と「振り返り」について意識して取り組んだ。	B	全教員が「めあて」を明確にし、「振り返り」をしっかりと行い、めあてに即した学び合いができるようする。	
				3 目標を効果的に達成するために児童相互の学び合い活動を実践…60%以上の教員		3 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…60%以上の児童					
				2 目標を効果的に達成するために児童相互の学び合い活動を実践…50%以上の教員		2 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…50%以上の児童					
		デジタル教科書、タブレット端末等を活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進する。		1 目標を効果的に達成するために児童相互の学び合い活動を実践…50%未満の教員		1 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…50%未満の児童					
				4 目標を効果的に達成するためにICT機器を学習に活用した…70%以上の教員	3	4 学習にタブレットの活用は役立っている…70%以上の児童	3	1人1台のタブレット端末は各教科で有効に活用し、個別最適化の学習に役立った。	B	授業のねらい及び、発達段階に応じた活用法を開発し、取り組んでいく。	
				3 目標を効果的に達成するためにICT機器を学習に活用した…60%以上の教員		3 学習にタブレットの活用は役立っている…60%以上の児童					
				2 目標を効果的に達成するためにICT機器を学習に活用した…50%以上の教員		2 学習にタブレットの活用は役立っている…50%以上の児童					
				1 目標を効果的に達成するためにICT機器を学習に活用した…50%未満の教員		1 学習にタブレットの活用は役立っている…50%未満の児童					
豊かな心	「みんなと仲良くできて楽しい」 道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成を目指す。	道徳授業の質の向上を図り、自分の考え方方に気付き、互いに認め合う児童を育成する。	道徳授業を通して、一人一人の良さを認め、互いに必要とされる実感がもてる学級経営を実践する。	4 お互いを認め合う道徳授業の実施…70%以上の教員	3	4 落ち着いて授業が受けられた…70%以上の児童	3	ユニバーサルデザインを意識した教室環境を維持することができた。	B	児童相互によさと可能性を尊重し、共生するためのサポートやシステムを構築していく。	
				3 お互いを認め合う道徳授業の実施…60%以上の教員		3 落ち着いて授業が受けられた…60%以上の児童					
				2 お互いを認め合う道徳授業の実施…50%以上の教員		2 落ち着いて授業が受けられた…50%以上の児童					
		インクルーシブ教育の推進とユニバーサルデザインに基づいた教室経営を図る。		1 お互いを認め合う道徳授業の実施…50%未満の教員		1 落ち着いて授業が受けられた…50%未満の児童					
				4 インクルーシブ教育を推進し、教室をユニバーサルデザインにした…70%以上の教員	2	4 インクルーシブ教育を受けられた…70%以上の児童	3	児童に多様性の理解は深まっているようだ。	B	児童相互によさと可能性を尊重し、共生するためのサポートやシステムを構築していく。	
				3 インクルーシブ教育を推進し、教室をユニバーサルデザインにした…60%以上の教員		3 インクルーシブ教育を受けられた…60%以上の児童					
				2 インクルーシブ教育を推進し、教室をユニバーサルデザインにした…50%以上の教員		2 インクルーシブ教育を受けられた…50%以上の児童					
				1 インクルーシブ教育を推進し、教室をユニバーサルデザインにした…50%未満の教員		1 インクルーシブ教育を受けられた…50%未満の児童					
健やかな体	「心も体も弾んで楽しい」 からがだ計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	健康教育の充実を図るためにグッドモーニング60分の取組を年間を通して行う。	4 健康教育活動の実施…70%以上の教員	3	4 思いやりの心をもって行動している…70%以上の児童	3	異なる意見を尊重することが大切であると意識付けをすることができた。	B	児童会や学級会等で道徳授業で培った内容を実践していく。	
				3 健康教育活動の実施…60%以上の教員		3 思いやりの心をもって行動している…60%以上の児童					
				2 健康教育活動の実施…50%以上の教員		2 思いやりの心をもって行動している…50%以上の児童					
		いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く気付き対応し、安心して通える学校にする。	学校いじめ対策基本方針に基づいて児童への指導を定期的に行う。	1 お互いを認め合う道徳授業の実施…50%未満の教員		1 思いやりの心をもって行動している…50%未満の児童					
				4 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…70%以上の教員	3	4 学校で安心して生活できている…70%以上の児童	3	毎月のいじめ対策委員会において早期発見対応を行っている。SOSカードの取組は良い。継続していってほしい。	A	教職員の規範意識を高め、SOSカード等の取組を継続していく。	
				3 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…60%以上の教員		3 学校で安心して生活できている…60%以上の児童					
				2 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…50%以上の教員		2 学校で安心して生活できている…50%以上の児童					
		人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い、自尊感情や自己有用感を高める。	縦割り班活動の充実を図り、児童同士が実体験を伴う交流を行う。	1 学校で安心して生活できている…50%未満の児童		1 学校で安心して生活できている…50%未満の児童					
輝く未来	「みんなの役に立てて楽しい」 自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じる子供を育成するともに、キャリア教育を推進し、社会貢献力の育成を図る。	心も体も弾んで楽しいからがだ計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	元気アップガイドブックの活用した取組を年間を通して行う。	4 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…70%以上の教員	3	4 学校や学級の仲間と接している…70%以上の児童	2	固定メンバーで始めて1年経ち、異学年児童同士の交流が増えてきた。	C	ゲストティーチャーを招聘した授業を行い、本物にふれる機会を増やす。	
				3 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…60%以上の教員		3 学校や学級の仲間と接している…60%以上の児童					
				2 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…50%以上の教員		2 学校や学級の仲間と接している…50%以上の児童					
		自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じる子供を育成する。	児童が自分自身を見つめ、自分の得意なところがあると感じる児童を育成する。	1 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…50%未満の教員		1 学校や学級の仲間と接している…50%未満の児童					
				4 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…70%以上の教員	3	4 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…70%以上の児童	3	職員が年間を通して、健康教育を行うことの大切さを認識し、実践できている。	B	児童に場面ごとに例示し、安全や健康についてより意識できるようにしていく。	
				3 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…60%以上の教員		3 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…60%以上の児童					
				2 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…50%以上の教員		2 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…50%以上の児童					
健やかな体	「心も体も弾んで楽しい」 からがだ計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	一人一人が体力向上を意識できる、体育学習の充実を図る。	コオーディネーショントレーニングを含む体力向上へ向けて実践を体育の授業で行う。	1 体力向上に関する指導を20回以上実施…70%以上の教員	4	4 体力向上に接する…70%以上の児童	4	コオーディネーショントレーニングに全校で取り組むことができた。	A	より効果があがる実施方法へ改善していく。	
				3 体力向上に関する指導を20回以上実施…60%以上の教員		3 体力向上に接する…60%以上の児童					
				2 体力向上に関する指導を20回以上実施…50%以上の教員		2 体力向上に接する…50%以上の児童					
		自らの健康を適切に管理するとともに改善能力を培う。	元気アップガイドブックの活用した取組を年間を通して行う。	1 体力向上に関する指導を20回以上実施…50%未満の教員		1 体力向上に接する…50%未満の児童					
				4 食事や栄養についての知識を生かしている…70%以上の教員	3	4 食事や栄養についての知識を生かしている…70%以上の児童	2	元気アップガイドブックの活用は全学年で行ったが、日常的な活用はできていない。	B	各学期末に振り返りをさせ、運動や遊びに継	

学校教育目標	◎よく考える子(すすんで学び考え、あきらめずに問題に取り組む子ども) ○心豊かな子(やさしい心で、自分も他人も大切にする子ども) ○たくましい子(すすんで体を鍛え、粘りつよく行動する子ども)	【目指す学校像】	○すべての子どもの良さ・可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校
		【目指す児童・生徒像】	○自己肯定感をもって自己発揮でき、自分も他人も良さが分かり、大切にできる子ども
		【目指す教師像】	○様々な教育課題に適切に対応し、経営参画意識をもって職層に応じた役割を果たしながらチーム力を高めることができる教師集団

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	課題解決的な学習展開による探究的な学びの充実	生活科・総合的な学習の時間においてカリキュラム・マネジメントにより教科で習得した力や見方を發揮して課題解決に取り組む。	児童の資質・能力を教科間の連携で育成し、主体的・対話的で深い学びを展開する。	4 全ての単元で実施した。 3 14分の3以上の単元で実施した。 2 2分の1以上の単元で実施した。 1 2分の1未満の単元で実施した。	4	4 全学年の定着率が90%以上 3 全学年の定着率が80%以上 2 全学年の定着率が70%以上 1 全学年の定着率が70%未満	4	各学年の実践で教科横断的な学習を図りつつ、児童が主体的に活動する実践を展開することができた。	研究発表を通じた「結育」で地域とつながり、児童、教職員の主体性が高まり、全ての方向でプラスに向かっている。	A	児童への課題意識のもたせ方についての研究を深め、「デジタルを活用したこれからの学び」の実践につなげる。
			基礎的な知識・技能の習得とのバランスを取りながら、すすんで学び考え、諦めずに問題に取り組む態度を養う。	4 全教科・領域で実施する。 3 90%以上の教科・領域で実施する。 2 80%以上の教科・領域で実施する。 1 実施した教科・領域が80%未満である。	4	4 学びが深まったと思える児童が80%以上 3 学びが深まったと思える児童が70%以上 2 学びが深まったと思える児童が60%以上 1 学びが深まったくと思える児童が60%未満	3	ベーシックドリルの分析や補習教室での取組、全国学力・学習状況調査の分析を通して基礎的な知識・技能の習熟の課題と方法について共通理解を図ることができた。	授業参観の様子から、学年での話合いや教材研究、協働実践などに更に注力する必要性を感じた。	B	計算の技能、漢字の習得のためのドリル学習の見直し、評価規準に沿って指導と評価の一體化を図り、より一層の習熟を目指す。
			「分かる・できる・楽しい」授業づくりに努め、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が80%以上 3 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が70%以上 2 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が60%以上 1 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が60%未満	4	「学校の授業は分かりやすい」と答える児童は92%、「授業を工夫している」「学力を身に付けさせている」と答えた保護者はともに91%にのぼった。	教科担任制も検討しつつ、個々の教員が授業力を向上させるべく、教員相互の研鑽が求められる。	A	一定の割合で基礎・基本の習熟に困難さのある児童があり、指導方法の更なる検討、支援員の有効配置などの手立てを継続する必要がある。
			人権尊重の精神に基づき、いじめのない学級、いじめがなく毎日安心して登校できる学校づくりを行う。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 すすんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すすんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満	3	代表委員会のいじめ防止の取組や小中一貫いじめサミットへの参加、中学校と協働で取り組んだ挨拶運動を通して安心して登校できる学校づくりを推進することができた。	児童一人一人が楽しく学校生活を送れることが大事である。相談ができる大人がいないという児童を0にしたい。	B	今後も教職員の人権意識を向上させ、児童が「通いたい」、保護者・地域が「通わせたい」学校づくりを継続する。
		児童の自尊感情・自己肯定感の更なる向上を図り、積極的に社会に関われる人材を育成する。	偏見と差別を許さず、多様性を認め合う人権教育を推進する。	4 全学級が道德教育との関連を図っている。 3 全学級で事前指導、事後指導を行っている。 2 全学級で事前指導を行っている。 1 障害者理解の授業のみを行っている。	4	4 障害者との共生を具体的に理解した児童が90%以上 3 障害者との共生を具体的に理解した児童が80%以上 2 障害者との共生を具体的に理解した児童が70%以上 1 障害者との共生を具体的に理解した児童が70%未満	4	毎月の職員会議で人権研修を行い、教職員の人権感覚を高めた。また体験活動を通じた障害者理解を図ることができた。	一人一人の違いを認め合うことを大切にしてほしい。その延長として障害者理解を一層進めてほしい。	A	本校の特色ある取組である体験を通じた障害者理解教育を今後も継続し、人権教育を推進する。
			思いやりと人やもの・こととの関わりを豊かにする教育を推進する。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 すすんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すすんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満	3	詩の暗唱朝会、読書指導の充実を通して思いやりの醸成、よい聞き手の育成を図ることができた。	更に言語活動の取組を全ての教科を通じて重点的に行うといふことも大切である。学力向上の柱ともなり得る。	B	互いの個性を認め合い、協力して目標を達成するということを生活面、学習面で展開し、自己肯定感を高めていく。
			総合的な体力向上と日常的な健康教育の重視を図りながら、心身ともに健康な子どもを育てる教育	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 「よく体を動かしている。」児童が80%以上 3 「よく体を動かしている。」児童が70%以上 2 「よく体を動かしている。」児童が60%以上 1 「よく体を動かしている。」児童が60%未満	4	昨年度の体力調査の分析を基にした取組と今年度の体力調査の分析を基にした課題の設定をすることができた。	体育の授業はもとより、休み時間に外で体を動かして思い切り遊ぶ機会が増えるとよい。	A	瞬発力の向上を本校の重点課題として、体育科の授業の充実と体力向上の取組を行っていく。
			自分の身は自分で守り、困難を乗り越えるたくましい心を育む。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 困難を乗り越えたと思える児童が90%以上 3 困難を乗り越えたと思える児童が80%以上 2 困難を乗り越えたと思える児童が70%以上 1 困難を乗り越えたと思える児童が70%未満	3	危険を予測し、回避する能力が十分に育っていないかしたことによる事故や怪我が解消されていない。	運動会や持久走の取組のように目標をもって自分の体力を高める指導を続けてほしい。	A	安全指導の中でも、「生活安全」についての指導に力を入れ、児童の意識向上を図る。
			心身ともに健康な子どもの育成を図る。	4 全学級が取組を行っている。 3 11学級以上が取組を行っている。 2 9学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 すすんで取り組む児童・家庭が90%以上 3 すすんで取り組む児童・家庭が80%以上 2 すすんで取り組む児童・家庭が70%以上 1 すすんで取り組む児童・家庭が70%未満	4	年間を通して体幹を意識したトレーニングを継続して行った。	健康管理、体力向上を意識した生活態度、生活習慣が児童に身に付くとよい。食育指導の更なる具体的な取組がほしい。	B	日常生活でもトレーニングを行うよう習慣付ける。各教科と関連させて食育指導も展開し、得たものを家庭でも生かせるようにする。
輝く未来	世界に目を向け、正解のない問題に立ち向かう力を育成する。	郷土昭島に対する愛着や誇りをもち、積極的に良さを発信する子どもを育成する。	地域の素材や人材の活用、伝統文化、自然との関わりから昭島の良さを捉え、積極的に発信できるようにする。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が90%以上 3 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が80%以上 2 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%以上 1 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%未満	4	年間を通して各学年で地域の素材や人材の活用を図りながら実践を深めることができた。	児童が地域社会に目を向け、関心をもつよう取り組んでいたいしているのがありがたい。継続してほしい。	A	地域の既存の組織の活用を継続し、積極的に児童から郷土昭島の良さを発信するようにする。
		SDGsを「実社会・実生活」を見る窓として捉え、他者及び自然環境との関係性を認識できるようにする。	自分が学習していること、学習して得たことが「実社会・実生活」とどのように関わるかを理解できるようにする。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	3	4 関係性を認識できたと思える児童が90%以上 3 関係性を認識できたと思える児童が80%以上 2 関係性を認識できたと思える児童が70%以上 1 関係性を認識できたと思える児童が70%未満	3	地域での宣伝活動を通して学習していることが「実社会とつながっていること」を意識させることができた。	学年に応じて目を向ける社会の領域を着実に広げていけるよう、指導をお願いしたい。	B	地域の商店や団体での体験活動、学校行事の協働運営を通して児童が実社会とのつながりをより一層意識して学習できるようにする。
		地域や保護者の願いを教育活動に取り入れ、「地域とともにある学校づくり」を推進する。	多様化するニーズに応えながら教育活動を進め、「地域とともにある学校づくり」を図る児童を育成する。	4 全学級が参画を考えている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 参画を考えた学級が10学級未満である。	4	4 90%以上が実践意欲を抱いた。 3 80%以上が実践意欲を抱いた。 2 70%以上が実践意欲を抱いた。 1 実践意欲を抱いた児童が70%未満。	3	体験活動や宣伝活動、保護者・地域の参観を通して「地域とともにある学校づくり」を推進した。	学校と保護者・地域が協力して児童の地域への参画意識を高められるようにしていただきたい。	B	学校と自治会や青少年委員、青年の会などの組織とのより効果的な連携の仕方を模索し、実行する。保護者への呼び掛けも行う。

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校	【目指す学校像】	○楽しい学びの共同体
		【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子
		【目指す教師像】	○当事者意識をもって学校づくりを行う教師 ○組織で考え、組織で動くことができる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う、主体的・対話的な学びの実現	教員一人一人が課題意識をもって主体的に取り組む校内研究(特別活動)を充実させ、授業力の向上を図る。 学ぶことの楽しさを実感させる授業を積み重ね、主体的・対話的で深い学びによる学力向上を推進する。 児童の学力を把握し、実際に即した授業改善を行うことで、学力の向上を図る。	主体的な授業改善を図るために、教員それぞれが抱える課題の改善に向けて、学期ごとに授業観察を実施し、その都度検証する。	4 90%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 3 85%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 2 80%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 1 80%未満の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。	4	4 児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が95%以上 3 児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が90%以上 2 児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が85%以上 1 児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が70%未満	4	全ての教員がそれぞれに視点をもって授業改善に取り組んだことで、多くの教員が授業力の向上を感じて児童アンケートの授業の内容についての評価も95%が肯定的評価となった。	教員の努力が児童にも伝わっているのはすばらしい。	A	今後も児童が分かりやすい授業を実施されると共に、校内研究を通じて授業改善ができる計画を組んでいく。校内研究における特別活動のさらなる充実と教科等授業の日常的な相互参観とOJT。
			GIGA端末でICTを利用した授業スタイルを確立し、児童自身に課題意識をもたせて対話的な学びを進めることで、個別最適な学習を実現する。	4 8割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。 3 7割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。 2 6割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。 1 5割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。	4	4 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が90%以上肯定的 3 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が70%以上肯定的 2 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が50%以上肯定的 1 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が50%以上否定的	4	一人1台端末が定着し、児童が自分に合ったツールを選択して学習する姿も現れている。複数学級が同時にアクセスすることや端末の経年による劣化(特にバッテリー)など、ハード面での課題は引き続き大きい。	ハード面での改善を、地域としても市に働きかけたい。	A	ハード面は地域や市と連携して解決を図りながら、児童がタブレットを文房具と同様に使用できるように端末の活用を進める。自由進度型の活用と対話型の活用を効果的に進める。ICT教育の情報交換を行う。
			授業改善推進プランを活用したり、単元ごとの3観点評価を計画的に行ったりすることで、指導と評価の一体化を意識した授業を実践する。	4 90%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 3 85%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 2 80%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 1 70%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。	4	4 児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が95%以上 3 児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が90%以上 2 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が85%以上 1 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が70%未満	4	授業改善推進プランの作成を通して、各学年で児童の学習状況に応じた授業改善を計画・実施することができた。そして、児童の授業内容の理解につながっていることが児童アンケートの結果から分かる。	今後も児童が授業内容を理解していくよう継続してほしい。	A	授業改善推進プランを活用しながら、児童の学習状況や実態に合わせて授業改善を計画・実施する。学力調査の結果分析により、課題を明確化し、改善のポイントを共有するとともに、授業改善推進プランに反映させる。
豊かな心	自分と共に他者を大切にする態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成	自発的に挨拶をする態度を養い、挨拶が自然に通い合う学級、学校をつくる。 組織的な道徳教育の推進により、児童一人一人が自ら振り返ることで、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。 心の安全を保障する指導体制を確立し、児童一人一人が安心して、過ごすことができる学校にする。	年内の学校生活目標に3度ほど挨拶を取り上げたり、児童会を中心とした挨拶運動に取り組ませたりして、挨拶指導の強化を図る。	4 全教職員が日常的に指導した。 3 90%以上の教員が日常的に指導した。 2 80%以上の教員が日常的に指導した。 1 80%未満の教員が日常的に指導した。	4	4 児童アンケート「自分から挨拶」が90%以上 3 児童アンケート「自分から挨拶」が80%以上 2 児童アンケート「自分から挨拶」が70%以上 1 児童アンケート「自分から挨拶」が70%未満	3	挨拶の大切さについては、日常的に指導を継続しており、どの児童も理解している。一方で、実際に行動に移せるかどうかは個人差が大きい。また、挨拶をする相手が親しい相手に限定される児童もある。	朝の見守り隊から見ても、挨拶ができる子・できない子の差がある。「おはよう」「こんにちは」という基本的な挨拶ができるようにならねたい。	B	年度末には、感謝の会を開き、お世話になった方への感謝の気持ちをもてるように指導する。来年度も引き続き、挨拶の意義を伝えるとともに、日常的な指導を行っていく。日常的な事例を用いた学級指導や全体での指導を継続する。
			道徳教育の全体計画や年間指導計画を見直し、道徳推進教師を中心に、道徳科の授業改善と道徳授業地区公開講座の実施を計画する。	4 90%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 3 85%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 2 80%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 1 80%未満の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。	4	4 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が95%以上 3 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が93%以上 2 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が90%以上 1 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が90%未満	4	日々の組織的な道徳教育の成果が出ており、児童は自他を大切にしながら生활することができる。コミュニケーション能力に課題があり、思いはあるが実践に結びつかない児童も一定数いる。	*特記事項なし	A	今年度同様、全ての教育活動を通して計画的な道徳教育を実践していく。来年度は、特に実践力につなげていく指導に力を入れていく。学年内のローテーションによる道徳の授業等により、道徳科の授業改善を進める。
			人権教育プログラムやいじめ総合計画に基づいた組的な取組により、月に1回以上いじめ対策委員会を開く。また、年に3回以上「いじめに関する授業」を実施する。	4 全教員が3回以上いじめに関する授業を行った。 3 90%が3回以上いじめに関する授業を行った。 2 80%が3回以上いじめに関する授業を行った。 1 80%未満が3回以上いじめに関する授業を行った。	4	4 児童アンケート「いじめは許さない」とが95%以上 3 児童アンケート「いじめは許さない」とが93%以上 2 児童アンケート「いじめは許さない」とが90%以上 1 児童アンケート「いじめは許さない」とが90%未満	4	教員、児童どちらも人権意識が非常に高い。そのため、いじめの件数は少ないが、いじめの定義は理解していないのも、いじめを行ってはじめて初めて気付く児童がいるという実態もある。	*特記事項なし	A	いじめに関しては、何よりも高い意識をもち、全職員で一丸となって早期発見、早期対応にあたる。また、組織で対応することを共通理解し、一人の教員が抱え込まないようにして、人権教育プログラムに即したいじめ防止研修を年3回以上は行う。
健やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。 基本的な生活習慣を定着させ、児童の健康意識の向上と日常的な行動を促す。 児童の危険予知能力を育成し、危険を回避する能力を向上させる。	昨年の体力調査の結果分析から、筋持久力と走力、敏捷性に課題があることが分かった。敏捷性の向上をテーマにし、元気アップガイドブックの運動内容を参考にして、元気アップタイムを実施する。	4 全校児童が参加した。 3 90%以上の児童が参加した。 2 80%以上の児童が参加した。 1 70%以上の児童が参加した。	4	4 体力テストの結果で4学年以上が敏捷性で市平均以上 3 体力テストの結果で3学年以上が敏捷性で市平均以上 2 体力テストの結果で2学年以上が敏捷性で市平均以上 1 体力テストの結果で2学年未満が敏捷性で市平均以上	2	元気アップタイムや体育の授業を通して、運動に親しむ機会を設定した。しかし、課題である敏捷性が全校全体制として向上しているわけではない。児童自ら運動の機会を増やすために、敏捷性向上につながる運動遊びを発信していく必要がある。	走る・投げるなどの基本動作を、授業の中で向上できると良い。また、講師を招いての授業や縦割り班での外活動を増やすように、敏捷性向上につながる運動遊びを発信していく必要がある。	C	体育の授業の中で、走る・投げるなどの基本動作を最初の準備運動に取り入れられるように、運動例を全体で共有し、全学級で実施していく。体力調査の結果分析による課題の明確化と取組内容の改善を担当分掌を中心に行い、取組の継続と改善を進める。
			元気アップガイドブックや保健便り、給食便りを活用して生活リズムカード(グッドモーニング60)に取り組み、児童が自身の生活の振り返りを行う。	4 全学級で記録と振り返りを行った。 3 90%以上の学級で記録と振り返りを行った。 2 80%以上の学級で記録と振り返りを行った。 1 70%以上の学級で記録と振り返りを行った。	3	4 児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う」95%以上 3 児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う」90%以上 2 児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う」85%以上 1 児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う」85%未満	3	生活リズムカードを年に3回実施し、児童と保護者が自分の生活の振り返りを行なう機会をつくった。課題になっている点については、改善のヒントを保健などに掲載し、児童が生活を見直せるようにした。	取組は大変良いものだと思う。保健者へのはたらきかけが課題に感じる。改善のヒントのお知らせを継続していく。	B	生活リズムカードの実施と改善のヒントを掲載していくことを引き続き継続していく。また、保健の授業などでも、各学級で生活を整えていくことの重要性を指導していく。グッドモーニング60分の益々の意識化、継続化を図り、生活リズムの定着を目指す。
			安全教育プログラム等を活用した安全指導を日常的に行う。また、事前に十分指導した上で、予告なしの避難訓練を毎月実施する。	4 全教員が日常的に指導を行った。 3 90%以上の教員が日常的に指導した。 2 80%以上の教員が日常的に指導した。 1 80%未満の教員が日常的に指導した。	4	4 児童アンケート「安全や健康についての知識を生活の中で生かしている」が90%以上 3 児童アンケート「安全や健康についての知識を生活の中で生かしている」が85%以上 2 児童アンケート「安全や健康についての知識を生活の中で生かしている」が80%以上 1 児童アンケート「安全や健康についての知識を生活の中で生かしている」が80%未満	3	毎月予告なしの避難訓練や安全指導を行っている。ただ、それが当たり前にすぎて児童の中で実感がないと思われる。安全指導についての体験や実感が生まれる取組を模索することが課題である。	当たり前でも訓練が継続できており、評価できる。過去の震災の記録など今後も児童に見せて伝えていく。	A	避難行動については身に付いている。今後はさらに、どうしてその行動が必要なのか考えて避難することや、実際の避難場面を具体的にイメージしながら訓練に取り組めるように指導していく。安全指導の見直しを進め、避難訓練の設定の変更を行う。
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら自己実現を図ったり、より良い人間関係を形成したりできるようにする。 児童が自主的に活動できるように、「特別活動 大人の10の流儀」を意識し、学級会を軸とした話し合い活動を充実させる。	児童と教職員とが知恵を出し、工夫した学校行事を生み出し、児童に達成感や連帯感、自己有用感をもたせる。	4 全教員が話し合い活動を充実させた。 3 90%以上の教員が話し合い活動を充実させた。 2 80%以上の教員が話し合い活動を充実させた。 1 70%以上の教員が話し合い活動を充実させた。	4	4 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が95%以上 3 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が90%以上 2 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%以上 1 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%未満	2	学級会をはじめとする教職員での学び合い、各学級で話し合い活動を積極的に実施した。児童主体の学び合いが定着してきた一方で、話し合いが定着していない。児童が一定数いる。各学級での課題を共有し、手でてを講じていく。	*特記事項なし	B	学級会を活発にするための手でてを教員が理解し、実施してきた。来年度も引き続き積極的に学級会を行っていく。また、学級活動だけでなく、委員会やクラブ、縦割り班活動にも力を注いでいく。
			児童会や実行委員会活動を活性化し、児童が主体的に取り組めるスポーツ及びアートフェスティバルの計画を立て、実施する。	4 90%以上の児童が楽しく参加した。 3 80%以上の児童が楽しく参加した。 2 70%以上の児童が楽しく参加した。 1 60%以上の児童が楽しく参加した。	4	4 児童アンケート「行事の満足度」が90%以上 3 児童アンケート「行事の満足度」が80%以上 2 児童アンケート「行事の満足度」が70%以上 1 児童アンケート「行事の満足度」が60%未満	4	たてわり班活動を各行事に取り入れ、全校遠足を行ったことで、異学年での交流機会が増え、互いに認め合える関係性が築け、行事の満足度が高まった。たてわり班活動を継続し、児童主体で取り組むことができるよう実行委員の充実を図っていく。	たてわり班活動の良さを充分に發揮できている。	A	各行事で、たてわり班活動を取り入れたことで、たてわり班での関わりが深まつた。来年度も継続してたてわり班活動を取り入れていく。「大人の10の流儀」の周知徹底により、実行委員会による学校行事の主体的な企画、運営を後押しする。
			体験的な学習を意図的に計画し、問題の解決や探求活動に主体的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。	4 全学年が体験的活動を実施した。 3 5つの学年が体験的活動を実施した。 2 4つの学年が体験的活動を実施した。 1 3つの学年が体験的活動を実施した。	3	4 児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が98%以上 3 児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が95%以上 2 児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が90%以上 1 児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が90%未満	3	単元計画に合わせて、外部人材を活用した特別授業を実施し、実際に見たり、体験したりする経験を通して、児童の興味関心が高まり、学びが深まつた。各学年で活用した外部人材を記録し、次年度に引き継ぐ。	外部人材の活用は大変有効である。今後、地域の人材もぜひ活用してほしい。	B	今年度活動した外部人材を来年度も取り入れていただけるように引き継いでいく。また、様々な特別授業を取り入れることで児童が分かりやすい授業を目指していく。生活総合の年間指導計画の見直しを実践を通して行う。

学校教育目標	◎すすんとする子	ビジョン	【目指す学校像】	子供一人一人の『幸せ(ウェルビーイング)』を具現化する学校+教職員一人一人の『働きがい』を具現化する学校
	○健康な子		【目指す児童・生徒像】	どの共同体でも力を發揮できる子(2030/2040年の日本を生きる子供たちへ) cfエージェンシー(社会を変革する力)の育成
	○考える子 ○協力する子		【目指す教師像】	子供の幸せを念頭に、教育者としての熱意とスキルを併せ持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	主体的な学びの喜びを通して、児童・教師が「光華遊学」の成果を実感する	知的好奇心の向上	・面白いを重視した授業づくり ・児童の視野を広げる工夫 ・対話的な学びの充実	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしていると回答	4	光華遊学の具体化が児童に伝わってきた結果と認識している。	B	次年度も教科内に留まらず、学校生活全体で好奇心を高めていきたい。言語化し協働するスキルが課題。	
				3 概ね2項目に取り組むことができた	3	3 80%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしていると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた	2	2 70%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしていると回答					
		問題解決型学習の推進		1 全く取り組めなかつた	1	1 60%以上の児童が楽しく学校生活を過ごしていると回答					
		・主体性を引き出す課題設定 ・解決の見通しを重視 ・適切なまとめ方・表現を重視	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答	4	光華遊学の趣旨が教師に浸透し始めた結果と認識している。	A	3つの学びのスタイルごとにPBLの重点化が見えてきた。この浸透と具現化を図っていきたい。		
			3 概ね2項目に取り組むことができた	3	3 80%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答						
			2 概ね1項目に取り組むことができた	2	2 70%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答						
			1 全く取り組めなかつた	1	1 60%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答						
		教育DXの推進	・教師自身のスキル向上 ・情報リテラシー教育の推進 ・積極的なICT活用	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童がタブレットは役に立つと回答	4	ICT担当者を増やしたこと、研修が即時活用できる内容であったことの結果と認識している。	B	まずは教師のDX活用推進を図るため、実働性・即効性ある研修を重ねたい。	
				3 概ね2項目に取り組むことができた	3	3 80%以上の児童がタブレットは役に立つと回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた	2	2 70%以上の児童がタブレットは役に立つと回答					
				1 全く取り組めなかつた	1	1 60%以上の児童がタブレットは役に立つと回答					
豊かな心	多様な見方・考え方を働きかせ、自ら楽しさ(ワクワク・ドキドキ)を見い出す心のクセを身に付ける	多様性を認め合う心の醸成	・聞く力・態度の育成 ・特別支援教育の推進 ・人権感覚の育成	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	遊びの中での相互承認、特別支援教育の浸透が結果につながっている。	A	最重要課題の一つとして位置付け、全教育活動の基盤として、意図的に児童に浸透させていく。	
				3 概ね2項目に取り組むことができた	3	3 80%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた	2	2 70%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
		感性を豊かにする教育の充実		1 全く取り組めなかつた	1	1 60%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
		・読書活動の充実 ・個々の感性を重視 ・体験活動の充実	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答	4	児童の内面を重視し、音楽とも連携した展覧会がこの結果に一役つながっている。	B	感性の育成という視点でも次年度予定の音楽会の充実を図る。特に鑑賞を重視したい。		
			3 概ね2項目に取り組むことができた	3	3 80%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答						
			2 概ね1項目に取り組むことができた	2	2 70%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答						
			1 全く取り組めなかつた	1	1 60%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答						
		最後まであきらめない心(レジリエンス)の醸成	・児童主体の活動保証 ・形成的評価の充実 ・継続的な活動の工夫	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が決めたことは最後まで頑張り続けることができる回答	3	この醸成に具体策が見いだせなかつたが、年度末反省を通じ次年度への方向性が定まり始めている。	A	この育成の基盤を「自己理解」とする。段階的な自己理解促進がレジリエンスにつながるか検証したい。	
				3 概ね2項目に取り組むことができた	3	3 80%以上の児童が決めたことは最後まで頑張り続けることができる回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた	2	2 70%以上の児童が決めたことは最後まで頑張り続けることができる回答					
				1 全く取り組めなかつた	1	1 60%以上の児童が決めたことは最後まで頑張り続けることができる回答					
健やかな体	自らの健康を保持・増進する生活習慣の定着	体を動かす喜びの実感(「遊び」の重視)	・体育の授業改善 ・元気アップガイドブック活用 ・元気アップタイムの推奨	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答	3	例年より運動遊びの機会を増やしたが、教師・児童の実感につながっていないのかもしれない。	B	次年度も遊びの重視を基盤とする。元気アップの動画も試行していきたい。	
				3 概ね2項目に取り組むことができた	3	3 80%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答					
		生活習慣の改善		2 概ね1項目に取り組むことができた	2	2 70%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答					
		・いじめ防止の推進 ・安全(交通・生活・災害)教育の推進 ・SOSの出し方教育推進	1 全く取り組めなかつた	1	1 60%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答						
			自他の「性・生命」の尊重		4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答	4	児童の変容が見えにくい。挨拶は基本であり、さらに家庭の協力を仰ぎたい。	B	GM60、SNSルール、食育の重視は継続する。食の循環を校内で実施したい。
					3 概ね2項目に取り組むことができた	3	3 80%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答				
					2 概ね1項目に取り組むことができた	2	2 70%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答				
					1 全く取り組めなかつた	1	1 60%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答				
輝く未来	非認知能力の育成	「自己肯定感」の向上	・まずやってみる習慣の推奨 ・役に立つ喜びの重視 ・個のよさを伸ばす取組	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答	4	まずやってみよう、という校内の空気が浸透してきたことが結果につながっている。	A	光華遊学の先に自己肯定感があると信じる。教科内だけではなく、学校全体の空気感を高める。	
				3 概ね2項目に取り組むことができた	3	3 80%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答					
		他者や地域と「つながる」喜びの実感		2 概ね1項目に取り組むことができた	2	2 70%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答					
				1 全く取り組めなかつた	1	1 60%以上の児童が「自分にはいいところある」と回答					
		自己を見つめる力の醸成	・キャリアアルバムの活用 ・道徳の授業改善 ・学習の自己評価活動	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答	4	外部人材の活用は学年差が出ているが、評価以上のつながりがあつたと認識している。	A	地域コーディネータの活用を定着させる1年間としたい。	
				3 概ね2項目に取り組むことができた	3	3 80%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた	2	2 70%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答					
				1 全く取り組めなかつた	1	1 60%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答					

学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	人も自分も大切に、みんなが輝く成隣小
			【目指す児童・生徒像】	互いを認め合い協力し合いながら課題を解決し、児童一人一人が前向きに学校生活を送っている。
			【目指す教師像】	自身の知識・技能の向上に努め、学校の実践力、「チーム成隣」としての組織力を向上させている。

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策		
確かな学力	◎主体的に学習に取り組む児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実させる。	①学習のめあての提示 ②振り返りを実施 ③ICT機器の活用	4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った 3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った 2 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った 1 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった	4	4 児童アンケート「すすんで学習」9割以上 3 児童アンケート「すすんで学習」8割以上 2 児童アンケート「すすんで学習」7割以上 1 児童アンケート「すすんで学習」7割未満	4	学習のめあての提示や振り返りの定着ができた。OJT研修でタブレット端末の活用に取り組んだ。	めあての提示は学習意欲につながる。タブレットの活用はとても良い。	A	ICTのより一層の推進。		
				4 保護者会での周知と個別の対応を全12学級で実施した。 3 保護者会での周知と個別の対応を11学級で実施した。 2 保護者会での周知と個別の対応を10学級で実施した。 1 保護者会での周知と個別の対応を9学級以下で実施した。	4	4 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価8割以上 3 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価7割以上 2 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割以上 1 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割未満	2	家庭学習のチェック表活用に取り組んだが、家庭学習の定着は十分ではない。	家庭状況がまちまちなので達成が難しいが、不断の努力を続けてほしい。	B	ICTを活用した個別最適の学習、家庭学習の模索。		
				4 子どもにやさしい教室環境 3 子どもにやさしい学習環境 2 子どもにやさしい授業 1 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下にしか取り組めなかった。	3	4 児童アンケート「授業分かりやすい」9割以上 3 児童アンケート「授業分かりやすい」8割以上 2 児童アンケート「授業分かりやすい」7割以上 1 児童アンケート「授業分かりやすい」7割未満	3	ほとんどの学級でユニバーサルデザインに則った教室環境を整えることができた。	多様な対応をすることで引き続きの取組継続をしてほしい。	B	ユニバーサルデザインの一層の推進。		
		昭島市立学校学校教育のユニバーサルデザインを活用した日常活動や授業における指導・支援を進める。	①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業	4 ユニバーサルデザインチェックリストの全てに取り組んだ。 3 ユニバーサルデザインチェックリストの8割以上に取り組んだ。 2 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以上に取り組んだ。 1 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下にしか取り組めなかった。	4	4 児童アンケート「授業分かりやすい」9割以上 3 児童アンケート「授業分かりやすい」8割以上 2 児童アンケート「授業分かりやすい」7割以上 1 児童アンケート「授業分かりやすい」7割未満	4	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価9割以上。 3 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。 2 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。 1 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満。	4	児童に活動のねらいや目的を明確にした授業と特別活動や学校行事を全12学級で実施した。	A	ポストコロナに沿った特別活動や学校行事の再考と再興。	
				4 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を10学級以上で実施した。 3 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を9学級以上で実施した。 2 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を9学級未満で実施した。	4	4 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価9割以上。 3 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。 2 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。 1 児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満。	4	道徳科の特質に即した授業を推進し、縦割り班活動を中心とした特別活動を実施した。	子供たちが相手の気持ちになって考えることができていた。	A	ポストコロナに沿った特別活動や学校行事の再考と再興。		
				4 児童が個々のよさを発揮して成長できる学級集団・学年集団を形成する。 ①キャリア・パスポートの活用 ②QUテストの活用	4	4 全ての学級でQUテストの結果を活用した。 3 9割以上の学級でQUテストの結果を活用した。 2 8割以上の学級でQUテストの結果を活用した。 1 QUテストの結果を活用した学級が8割以下だった。	2	2回目のQUの結果で安定感のある学級が3割以上 3 2回目のQUの結果で安定感のある学級が2割以上 2 2回目のQUの結果で安定感のある学級が1割以上 1 2回目のQUの結果で安定感のある学級が1割未満	2	安定感ある学級が8学級中1学級にとどまった。他にゆるみのある学級2、不安定な学級5であった。	より良い学級を作る努力を継続してほしい。	B	QUテストの専門家に研修を依頼し、来年度の学級づくりの参考とする。
		児童の言語環境を整え、人権感覚を高める。 ・互いを認め合い、物事を共に創造する体験的な活動を重視する。 ・互に支え合う、よりよい関係を大切にした活動を重視する。	児童の言語環境を整え、いじめ問題の未然防止と早期解消に全職員で取り組む。	4 いじめ防止授業の実施 ①いじめ防止授業の実施 ②外部講師を招いてのいじめ防止研修会の実施 1 実施できなかった。	3	4 外部講師を招いての研修を年3回以上実施した。 3 外部講師を招いての研修を年2回実施した。 2 外部講師を招いての研修を年1回実施した。 1 社会通念上のいじめ件数の増加	1	社会通念上のいじめ件数の前年比2割以上の減少 3 社会通念上のいじめ件数の前年比1割以上の減少 2 社会通念上のいじめ件数の前年とほぼ同水準 1 社会通念上のいじめ件数の1割以上の増加	1	外部講師を招いての研修は予定通り実施。いじめに関しては増えており、高学年を中心に集中している。	学校だけの問題ではなく、家庭・地域、みんなで取り組む必要がある。	C	支援員の増強、きめの細かいカウンセリングの実施、いじめ対策委員会の活用を推進、家庭地域との連携もすすめる。
				4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4	4 体力調査のA・B判定の児童が9割以上。 3 体力調査のA・B判定の児童が8割以上9割未満。 2 体力調査のA・B判定の児童が7割以上8割未満。 1 体力調査のA・B判定の児童が7割未満。	1	4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。 3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。 2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。 1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。	1	体力調査のA・B判定の児童は39%であった。しかし、体力調査の合計点では男子で4.6ポイント女子で1.7ポイント全国平均を上回った。	体力向上の取組についてもっとアピールしていく必要がある。	C	体力調査結果の分析をすすめ、体育授業へ反映させる。また、その様子を学校だよりに載せる。
				4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施した。 3 健康教育の授業を年2回実施した。 2 健康教育の授業を年1回実施した。 1 健康教育の授業を実施できなかった。	4	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施した。 3 健康教育の授業を年2回実施した。 2 健康教育の授業を年1回実施した。 1 健康教育の授業を実施できなかった。	3	4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。 3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。 2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。 1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。	3	健康教育の授業、グッドモーニング60分の取組は予定通りに実施された。	健康習慣を身に付くように引き続きの取組を期待します。	B	引き続きグッドモーニング60分を推進していきたい。
		・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	健康で安全な生活のため必要な食習慣を身に付けさせる。	4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4	4 保護者アンケート「食育」肯定的評価7割以上 3 保護者アンケート「食育」肯定的評価6割以上 2 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上 1 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割未満	3	4 保護者アンケート「食育」肯定的評価7割以上 3 保護者アンケート「食育」肯定的評価6割以上 2 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上 1 保護者アンケート「食育」肯定的評価5割未満	3	計画通りに食育を推進することができた。	食育の内容についてもっと知らせてほしい。	B	給食課と連携し、栄養士を授業に招くなどして食育授業を推進、周知にも力を入れる。
				4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4	4 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価9割以上 3 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価8割以上 2 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価7割以上 1 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価7割未満	3	4 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価9割以上 3 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価8割以上 2 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価7割以上 1 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価7割未満	3	保護者への内容周知をもっと充実させてほしい。より一層の保護者との連携をすすめてほしい。	B	引き続き保護者とともに児童の安全・安心に関わる指導を充実させる。	
				4 学校行事と10個のPTA活動を実施 3 学校行事と7~9個のPTA活動を実施 2 学校行事と5~7個のPTA活動の実施 1 学校行事と4個以下のPTA活動を実施	4	4 保護者(家庭数)出席9割以上 3 保護者(家庭数)出席7割以上9割未満 2 保護者(家庭数)出席6割以上7割未満 1 保護者(家庭数)出席6割未満	2	保護者の出席については、お忙しい家庭も多く、日時や実施の仕方を考慮していく必要がある。	PTA休会後の学校との連携をより一層進めていく必要がある。	C	保護者出席率向上のための取組をすすめる。また、PTA休会への対応を学校運営協議会とともにすすめる。		
輝く未来	◎家庭・地域社会との理解を深め、地域の子供を育てる中心的な役割を果たす。 ・学校からの情報を積極的に発信する。 ・家庭や地域の声(期待・要望・批判)を活用する。 ・地域の教育資源や人材を活用する。	外部人材を活用した学習活動を計画的に行う。	ゲストティーチャー(GT)を活用した積極的に招聘する。	4 年2回以上GTを全12学級が招聘した。 3 年2回以上GTを11学級が招聘した。 2 年2回以上GTを10学級が招聘した。 1 年2回以上GTを9学級以下で招聘した。	1	4 学力調査「地域」肯定的回答9割以上 3 学力調査「地域」肯定的回答8割以上 2 学力調査「地域」肯定的回答7割以上 1 学力調査「地域」肯定的回答7割以下	2	全学級で1回以上はGTを招聘できている。	学校が積極的にゲストティーチャーを招聘しているのはよい。	B	引き続きゲストティーチャーの招聘を推進していきたい。		
		保護者とともに児童の安全・安心に関わる指導を充実させる。		4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4	4 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価9割以上 3 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価8割以上 2 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価7割以上 1 保護者アンケート「安全・健康」肯定的評価7割未満	3	全学級でセーフティ教室を実施することができた。	保護者への内容周知をもっと充実させてほしい。より一層の保護者との連携をすすめてほしい。	B	引き続き保護者とともに児童の安全・安心に関わる指導を充実させる。		

学校教育目標	○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	道徳教育を基盤として魅力ある学校をつくる。				
			【目指す児童・生徒像】	「た・な・か」の子 【 た:たくましい子 な:仲良くする子 か:かしこく考える子 の:のびる子 こ:個性豊かな子 】				
			【目指す教師像】	「た(Timemanagement=時間管理)・な(Navigator=誘導者・航海士)・か(kindness=思いやり・親切)」を意識し職務を励行する教師				

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本を大切にかかる授業を実践し、主体的・意欲的に学び、基礎的な知識及び技能等を確実に習得させる。	個々の学習状況を正しく把握し、読む・書く・計算する力を身に付けさせる。	授業、ベースックドリル、くじらーニング、日常のテスト、力試し、補習教室、宿題・家庭学習等の充実。	4 漢字、計算の定着が85%以上	4	4 全国学力 国・算全国平均 -2.5pt	4	6年全国2教科平均 -0.8Pt。指導力向上を目指していきたい。	A	ICT機器の活用を推進して基礎基本の学習の徹底を継続する。	
				3 漢字、計算の定着が82%以上		3 全国学力 国・算全国平均 -3.5pt以上					
				2 漢字、計算の定着が80%以上		2 全国学力 国・算全国平均 -5.0pt以上					
				1 漢字、計算の定着が80%未満		1 全国学力 国・算全国平均 -5.0pt未満					
		特別支援教育を充実させ、どの子にも分かりやすい授業を実践する。	市のユニバーサルデザイン(冊子)を活用するとともに、適切な環境づくりをする。	4 全校で冊子のUDチェック実施11回以上	4	4 児童評価 分かりやすい授業90%以上	4	児童評価「分かりやすい授業」の肯定的回答は95ptであった。指導方法・環境の改善を進めていく。	B	人材不足の中でも児童の学びと成長を推進できる組織づくりを工夫していく。	
				3 全校で冊子のUDチェック実施10回以上		3 児童評価 分かりやすい授業88%以上					
				2 全校で冊子のUDチェック実施9回以上		2 児童評価 分かりやすい授業85%以上					
				1 全校で冊子のUDチェック実施年9回未満		1 児童評価 分かりやすい授業85%未満					
		学年相当の時間(学年×10分)に基づいた家庭学習を推進させる。	自己の課題克服グッドライフ調査宿題+自学自習	4 各学年家庭学習実施率91%以上	3	4 保護者評価「家庭学習習慣あり」65%以上	4	児童、学級、家庭の実態を考慮しながら推進することができたが、さらなる習慣化が課題である。	A	実態を踏まえて課題の量や内容が適切かどうか検証し、習慣化をさせていく。	
				3 各学年家庭学習実施率86%以上		3 保護者評価「家庭学習習慣あり」60%以上					
				2 各学年家庭学習実施率81%以上		2 保護者評価「家庭学習習慣あり」55%以上					
				1 各学年家庭学習実施率81%未満		1 保護者評価「家庭学習習慣あり」55%未満					
豊かな心	人権意識を高め、自他を尊重する態度を醸成するとともに、集団の一員である自覚、規範意識等を育てる。	児童の道徳的実践力を高める。	道徳科の特質に即した授業を行うとともに、全教育活動を通して道徳教育を推進する。	4 特質に即した道徳授業を全学級で実施	4	4 思いやの心で行動が85%以上	4	自分や友達を大切にしているとの肯定的回答が95Ptと高かった。	B	令和7年度も道徳科を研究教科として道徳教育の充実を図っていく。	
				3 特質に即した道徳授業を9割の学級で実施		3 思いやの心で行動が83%以上					
				2 特質に即した道徳授業を8割の学級で実施		2 思いやの心で行動が80%以上					
				1 特質に即した道徳授業を7割の学級で実施		1 思いやの心で行動が80%未満					
		教員の人権感覚を高め、児童が安心して生活できるようにする。	人権教育プログラムを活用して人権感覚チェックを年3回以上実施する。	4 年3回以上実施した	4	4 児童評価「男女の別なく仲良く」88%以上	4	相談できるが90%達成。さらに向上できるよう児童理解に努める。	A	待つ・聞く・受け止める姿勢で児童が相談しやすくなるような関係性を構築していく。	
				3 年2回実施した		3 児童評価「男女の別なく仲良く」85%以上					
				2 年1回実施した		2 児童評価「男女の別なく仲良く」82%以上					
				1 実施できなかった		1 児童評価「男女の別なく仲良く」82%未満					
		学校生活をより楽しいものにする。	授業、特別活動、交流活動・交友活動の充実	4 楽しくする工夫をしている90%以上	4	4 学校生活は楽しいが85%以上	4	新しい発想の工夫で、より一層意味のある活動ができることが分かった。次年度も継続していく。	A	楽しい田中小学校をつくるために、これからも新しい発想を大切にし、交流活動を推進していく。	
				3 楽しくする工夫をしているか85%以上		3 学校生活は楽しいが83%以上					
				2 楽しくする工夫をしているか80%以上		2 学校生活は楽しいが80%以上					
				1 楽しくする工夫をしているか80%未満		1 学校生活は楽しいが80%未満					
健やかな体	日常的な運動を通して体力を向上させるとともに、健康で安全な生活のために必要な生活習慣や食習慣を身に付けさせる。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元気アップガイドブックを活用して体力向上のための体育的な活動を行う。	4 児童評価「運動に意欲的」の評価9割以上	3	4 体力調査のA、B判定の児童が65%以上	4	元気アップGBや外遊びの推進で体力向上を推進していく。	A	元気アップGBのさらなる活用と、体育学習、体力向上週間を推進し、体力向上を目指す。	
				3 児童評価「運動に意欲的」の評価8割以上		3 体力調査のA、B判定の児童が60%以上					
				2 児童評価「運動に意欲的」の評価7割以上		2 体力調査のA、B判定の児童が50%以上					
				1 児童評価「運動に意欲的」の評価7割未満		1 体力調査のA、B判定の児童が50%未満					
		健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。	グッドモーニング60分(GM60分)を推進して健康教育を行う。	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施	4	4 GM60分達成率が全児童の85%以上	3	放課後が多忙な高学年児童の達成率が上がらない。発達段階に合わせた指標も必要。	B	通年で、GM60分の推進を図るようにする。	
				3 健康教育の授業を年2回実施		3 GM60分達成率が全児童の80%以上					
				2 健康教育の授業を年1回実施		2 GM60分達成率が全児童の75%以上					
				1 健康教育の授業を未実施		1 GM60分達成率が全児童の75%未満					
		健康で安全な生活のために必要な食習慣を身に付けさせる。	望ましい食習慣を身に付けるための給食やお弁当(食育)の日の指導を推進する。	4 食育の指導を毎学期・年3回以上実施	4	4 食育を活用しているが80%以上	4	栄養士との連携を深め、成長の基盤となる食育を推進していく。	B	残菜率は4.6%で、昨年度より増加。食育リーダーを中心とした食育を推進する。	
				3 食育の指導を年2回実施		3 食育を活用しているが78%以上					
				2 食育の指導を年1回実施		2 食育を活用しているが75%以上					
				1 食育の指導を未実施		1 食育を活用しているが75%未満					
輝く未来	地域・家庭との信頼関係を構築するとともに、児童の豊かな人間性や人間関係調整力を高める教育活動を推進する。	将来の夢を児童にもたらす。	6年職場体験、キャリア・パスポート等を活用し職の理解を深める。	4 生き方について考える機会を与えた70%以上	4	4 将来について考えることがある83%以上	4	キャリアパスポートを活用して、将来の自分について考えていけるようにする。	A	自分の将来像をイメージさせ、生涯学習の基盤となるキャリア教育をより一層充実させる。	
				3 生き方について考える機会を与えた60%以上		3 将来について考えることがある80%以上					
				2 生き方について考える機会を与えた50%以上		2 将来について考えることがある77%以上					
		学校からの情報発信を積極的に行う。	学校便りの発行・メール配信を月1回以上、HPの更新を月3回以上行う。	1 生き方について考える機会を与えた50%未満		1 将来について考えることがある77%未満					
				4 8月を除く11ヶ月で実施	4	4 保護者「分かりやすい情報発信」85%以上	4	必要な情報が見つけやすいHPであるとのご意見が多数届いた。	A	さらに必要な情報をタイムリーに発信できるよう工夫をしていく。	
				3 8月を除く10ヶ月で実施		3 保護者「分かりやすい情報発信」80%以上					

学校教育目標	○やさしく(徳) ○強く(体) ○よく考え(知) 手をつなぐ拝島の子	ビジョン	【目指す学校像】	○生き生きと学び、達成感を味わえる学校 ○安心して子供を預けられる信頼できる学校 ○働きがいのある学校(教職員にとって)□
			【目指す児童・生徒像】	○心身ともに健康な子 ○主体的・対話的で深い学びのできる子 ○互いに認め合い高め合う子
			【目指す教師像】	○教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度の改善策
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行うとともに、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目指す。	授業改善、評価の工夫、カリキュラムマネジメントの実施と、個別最適な学び、協働的な学びを目指す指導への挑戦	・ゴール(評価)を明確にし、逆算的に計画する学習展開の工夫 ・児童の興味・心を高め、本時のめあてを学級で共有する主体的な学習 ・問題解決、探究的な学習 ・児童の実態把握、学力調査の分析、授業改善プラン作成・実践	4 「4項目全て取り組むことができた。 3 「3項目は取り組むことができた 2 「2項目は取り組むことができた。 1 「1項目しか取り組めなかった。	3	4 「95%以上の児童が授業に進んで取り組むと回答 3 「85%~95%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 2 「70%~85%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 1 「70%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答	3	成績指標「授業にすすんで取り組む」は、92.4%→94.8%の児童が肯定的な回答を行っている。2学期にはさらに学習に対する意欲が高まつたことがわかる。 取組指標は、3.1→3.4の回答であった。夏休みに作成した授業改善プランにしっかりと取り組んだためだと考えられる。	・学校の取組と、子供の評価が呼応しているうまく合っていると感じる。 ・不登校児童の学力の保障に工夫をしてほしい ・不登校児童への対応で、個々の状況に合った多様な学習が選択できるように。教育行政の取組が必要だと考える。 ・保護者としてはあまり感じないが、資料を通しての年間の変化がわかり、おもしろい。 ・多くの児童が自ら授業にすすんで取り組んでいる自己評価、家庭学習にも自発的に取り組んでいることは素晴らしいと感じた。一方で、力が付かない児童に対する指導が難しいと感じる。ベースは違うても、一人一人が少しでも評価を上げることができるように、今後の取組に期待している。	B	次年度も、個別最適な学びを目指し、児童の主体的な学習となるよう、授業改善を図る。そのためには、明確な学習、振り返りを確実に行い、指導と評価の一体化を目指す。また、問題解決的な学習や探究的な学習についても積極的に取り組んでいきたい。
			基礎的基本的な学力を身に付けるための取り組みの提案と実施	・児童の実態に合った学習スタンダードの見直しと取組の徹底 ・「できたら」が味わえる朝の自習の工夫 ・進んで読みたいと思える朝読書の工夫 ・家庭学習の意味を考え、児童が自発的に行える内容の工夫と習慣付け	3	4 「90%以上の児童が身に付いたと回答 3 「80%~90%未満の児童が身に付いたと回答 2 「70%~80%未満の児童が身に付いたと回答 1 「70%未満の児童が身に付いたと回答	3	成績指標「朝学習や家庭学習の定着」は、89.2%→87.6%の児童が肯定的な回答を行っている。1.6%下がったことがわかる。学習習慣の定着には課題が残る。 取組指標は、2.9→3.2回答であった。教員は目標達成のために努力したことがわかる。	・保護者としてはあまり感じないが、資料を通しての年間の変化がわかり、おもしろい。 ・多くの児童が自ら授業にすすんで取り組んでいる自己評価、家庭学習にも自発的に取り組んでいることは素晴らしいと感じた。一方で、力が付かない児童に対する指導が難しいと感じる。ベースは違うても、一人一人が少しでも評価を上げることができるように、今後の取組に期待している。	B	次年度も、朝自習や家庭学習に取り組みたくなる工夫をし、基礎学力の定着の手助けとする。一定の児童が自主学習に取り組めないことがわかるため、そのような児童への個別の対応をしていく必要がある。
			特別支援教育の視点を生かした環境整備の充実、授業改善の推進	・個別応じた指導及びUDを意識した学習展開(焦点化・視覚化・共用化) ・UD意識した学習環境の整備(板書・見通し・掲示刺激・机上や持ち物の整理) ・指導の個別化・学習の個別化の実践 ・保護者との共通理解	3	4 「95%以上の児童が授業に進んで取り組むと回答 3 「85%~95%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 2 「70%~85%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 1 「70%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答	4	成績指標「先生の授業分かりやすい」は、97.8%→98.2%の児童が肯定的な回答を行っている。教師の努力と、子供たちとのよりよい関係性が引き続き築けていることがわかる。 取組指標は、3.3→3.4の回答であった。困り感をもつ児童への対応に積極的に取り組んでいるが、苦慮していることもわかる。	・保護者としてはあまり感じないが、資料を通しての年間の変化がわかり、おもしろい。 ・多くの児童が自ら授業にすすんで取り組んでいる自己評価、家庭学習にも自発的に取り組んでいることは素晴らしいと感じた。一方で、力が付かない児童に対する指導が難しいと感じる。ベースは違うても、一人一人が少しでも評価を上げることができるように、今後の取組に期待している。	B	次年度も、教室環境の整備、学習での焦点化・視覚化・共用化を意識した学習展開を行い、児童にとててわかるようにして、特別支援の専門家とも相談をして、より具体的な個別の対応を検討していく。
豊かな心	自分も仲間も大切にし、お互いのよさを認め合い、相手を思いやる心を育て、楽しい学校生活を実感し、自己の生き方を深めることのできる児童の育成を目指す。	道徳授業の質の向上を図り、自ら考え、日常生活に活かし、互いに認め合う児童の育成	・よさを認め、互いに必要とする実感がもてる学級経営 ・価値を明確にした授業づくりと、自己と向き合う学習展開の工夫 ・年間計画の確実な実施 ・全教育活動に連携した指導	4 「4項目全て取り組むことができた。 3 「3項目は取り組むことができた 2 「2項目は取り組むことができた。 1 「1項目しか取り組めなかった。	3	4 「95%以上の児童が授業に進んで取り組むと回答 3 「85%~95%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 2 「70%~85%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 1 「70%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答	4	成績指標「自分や友達を大切にしている」は、99.1%→99.6%の児童が肯定的な回答を行っている。子供たちが互いを大切にしようという気持ちが定着していることがわかる。 取組指標は、3.3→3.4の回答であった。道徳の学習に積極的に取り組み、学級経営を行っていることがわかる。	・正に、自己指導の能力を養成する取り組みで、他の分野につながることを期待する。 ・この部分の評価が高いことは、これから期待できる力が身に付いていくことだと感じる。 ・自分の周りの仲間にに対する肯定感や思いやりの心の大ささは素晴らしいと感じた。様々な学校行事の折にも、その様子を感じることができた。一方で、自分に違う行動をする児童がいるとき、どのように止めるか、認めていくことができるのか、とても難しいことだと思うが、抨一小の児童なら、きっと今後も豊かな心で考え方、行動していくことができる期待している。	A	自分や友達を大切にしているという意識は、かなり強く感じていることがわかる。しかし、時々自分の気持ちを持ちながら定着していることがある。 ・この部分の評価が高いことは、これから期待できる力が身に付いていくことだと感じる。 ・自分の周りの仲間にに対する肯定感や思いやりの心の大ささは素晴らしいと感じた。様々な学校行事の折にも、その様子を感じることができた。一方で、自分に違う行動をする児童がいるとき、どのように止めるか、認めていくことができるのか、とても難しいことだと思うが、抨一小の児童なら、きっと今後も豊かな心で考え方、行動していくことができる期待している。
			いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く気付き対応し、安心して通える学校運営の実現	・人権教育プログラム、いじめ防止対策の活用 ・生活指導連絡会での情報共有と、素早い対応、報達相の徹底 ・アンケートの実施と未然防止、早期対応 ・ふわふわ言葉、励まし言葉の日常的な取組	4	4 「4項目全て取り組むことができた。 3 「3項目は取り組むことができた 2 「2項目は取り組むことができた。 1 「1項目しか取り組めなかった。	4	成績指標「よいこと、悪いことの判断ができる」は、98.9%→97.0%の児童が肯定的な回答を行っている。されまい月間での授業や、ふわふわ言葉はけしまし言葉月間の取組、ふれあいタイムの活用の効果が感じられる。 取組指標は、3.5→3.8の回答であった。週1回の情報交換の充実や、いじめ対策委員会での話し合いを通して、教師の意識の高まりが感じられる。	・よいこと悪いことの判断ができると感じている児童がほとんどあることがわかる。ただ、一部の児童の中に、突然発的に相手に暴力的な言動をとる児童がいる。教師が指導をすると同時に、その場にいる仲間が止められるよう力を育てていただきたい。	A	よいこと悪いことの判断ができると感じている児童がほとんどあることがわかる。ただ、一部の児童の中に、突然発的に相手に暴力的な言動をとる児童がいる。教師が指導をすると同時に、その場にいる仲間が止められるよう力を育てていただきたい。
			人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い自尊感情や自己有用感を高める実践への取組	・ゲストティーチャーによる学びの充実 ・実践、体験的活動の充実 ・栽培体験活動の実施 ・総割り班活動における関わりの充実	3	4 「90%以上の児童が体験学習は楽しいと回答 3 「80%~90%未満の児童が体験学習は楽しいと回答 2 「70%~80%未満の児童が体験学習は楽しいと回答 1 「70%未満の児童が体験学習は楽しいと回答	4	成績指標「総割り班や体験活動は楽しかった」は、96.6%→96.1%の児童が肯定的な回答を行っている。人の交流を通した活動から学ぶことの大さが分かったことが感じられる。 取組指標は、2.9→3.1の回答であった。学期を振り返り、ゲストティーチャーを招待した学習に取り組めたことがわかる。	・総割り班を含め、総割り班での活動を5年生から意識させることができた。次年度も引き続き取り組みを行い、子供たちの意識を高めていただきたい。 ・学校評議員をゲストティーチャーとしてお招きすることができた。内容や時期を含めさらに効果的な取組にしていただきたい。	B	総割り班を含め、総割り班での活動を5年生から意識させることができた。次年度も引き続き取り組みを行い、子供たちの意識を高めていただきたい。 ・学校評議員をゲストティーチャーとしてお招きすることができた。内容や時期を含めさらに効果的な取組にしていただきたい。
健やかな体	健康で安全な生活について自ら考え、仲間と協力して実践しようと挑戦する、心身ともに健康でたましい児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、安全に過ごすために、自己管理のできるたましい児童の育成	・グッドモーニング60分の取組 ・ノーメディア習慣の取組 ・安全・防災教育の確実な実施とよりかえりの重視 ・チャレンジ精神、ルール尊重、ファブレーの大切さを指導・実践	4 「4項目全て取り組むことができた。 3 「3項目は取り組むことができた 2 「2項目は取り組むことができた。 1 「1項目しか取り組めなかった。	4	4 「90%以上の児童が安全健康についていかすと回答 3 「80%~90%未満の児童が安全健康についていかすと回答 2 「70%~80%未満の児童が安全健康についていかすと回答 1 「70%未満の児童が安全健康についていかすと回答	3	成績指標「グッドモーニング60分やノーメディア週間に取り組んだ」は、84.5%→80.0%の児童が肯定的な回答を行っている。1学期よりさらに数値が下がっている。 取組指標は、3.5→3.7の回答であった。教師が生活習慣の定着を大切に気付かせたいと、指導を意欲的に行っていることがわかる。	・学級の取組だけではなく、いかんどもしがたい分野だと思われる。子供たちにどう興味をもつてもらおうかと、家庭の協力をどう得られるかという工夫が必要だと思う。ネットのリテラシーも同様に対応が必要だと思う。 ・体を動かす機会が減っている。地域でも家庭でも、機会をつくすように工夫したい。	B	様々な取組を行ってきたが、約20%の児童が肯定的に捉えられないことは課題である。次年度は、保護者への啓発やオンラインゲームやSNSの継続利用の怖さなども、意図的に計画し、児童と保護者の意識を変革していく。
			一人一人が自らの体力を知り、自分に合った方法を考え、体力向上に取り組む児童の育成	・めでてが明確な体育学習の展開 ・元気アップガイドブックを活用した、体力運動能力調査の分析と、具体的な取り組みの推進 ・体育朝会の取組と授業での活用 ・抨一小ピックでの運動遊びの体験から、遊びの日常化への工夫(学年含む)	4	4 「4項目全て取り組むことができた。 3 「3項目は取り組むことができた 2 「2項目は取り組むことができた。 1 「1項目しか取り組めなかった。	3	成績指標「学校で遊んだり、身体を動かしているか」は、89.1%→85.3%の児童が肯定的な回答を行っている。1学期より数値が下がってしまった。 取組指標は、3.0→3.4の回答であった。体力向上に関する指導を目指し、抨一小ピックの工夫や授業の向上に向けた取り組みをしていることがわかる。	・学級の取組だけではなく、いかんどもしがたい分野だと思われる。子供たちにどう興味をもつてもらおうかと、家庭の協力をどう得られるかという工夫が必要だと思う。ネットのリテラシーも同様に対応が必要だと思う。 ・体を動かす機会が減っている。地域でも家庭でも、機会をつくすように工夫したい。	B	学校でできる取り組みは、かなりすみめることができていい。子供たち自身の中に、外遊びを敬遠する児童が増えてきていることが感じられる。仲間とかかわりあって遊ぶことが苦手だったり、トラブルにつながることもある。仲間づくりにも力を入れて工夫をしていただきたい。
			食の大切さや健康について学び、自らの健康について考えることのできる取組	・お弁当の日に自ら栄養について考えたり、食の大切さについて考えたりする活動 ・保健指導から、自分の体についての学び ・健康教育(性犯罪等)への取組 ・外部人材を招き学びの交流や講話や実技指導の取組	4	4 「4項目全て取り組むことができた。 3 「3項目は取り組むことができた 2 「2項目は取り組むことができた。 1 「1項目しか取り組めなかった。	3	成績指標「安全や健康についての学びを、生活中で活かす」は、92.0%→87.0%の児童が肯定的な回答を行っている。児童の意識が下がってしまったことが感じられる。 取組指標は、2.9→3.1の回答であった。食育や体を大切にするメディアの影響力の強さは、これまでの取組だけ変化をもたらすことは難しいのではないかと感じた。児童が自ら意識を変えるきっかけとなる機会を大いに期待する。	・児童の意識が下がってしまったことは残念である。これまで同様に安全指導の充実を図って生きた。また次年度はさらには保健学習での養護教諭の参加や、保健指導での学びを充実させていきたい。発達に応じた内容を考慮した指導ができるよう工夫をしていただきたい。	B	児童の意識が下がってしまったことは残念である。これまで同様に安全指導の充実を図って生きた。また次年度はさらには保健学習での養護教諭の参加や、保健指導での学びを充実させていきたい。発達に応じた内容を考慮した指導ができるよう工夫をしていただきたい。
輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向かって夢と希望をもち実現しようと努力する児童の育成を目指す。	学級会活動をはじめ、全教育活動における、キャリア教育の充実	・学級活動を通して学校生活を仲間と高める活動への取組 ・係活動、委員会活動、クラブ活動、総割り班活動の自主的な取組 ・年間指導計画に応じた、キャリア教育実践の充実(キャリアアルバムの活用)	4 「4項目全て取り組むことができた。 3 「3項目は取り組むことができた 2 「2項目は取り組むことができた。 1 「1項目しか取り組めなかった。	4	4 「90%以上の児童が自分の得意なことを考えると回答 3 「80%~90%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答 2 「70%~80%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答 1 「70%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答	4	成績指標「自分の生活を振り返りよりよくしようと思っている」は84.1%→92.2%の児童が肯定的な回答を行っている。1学期より8.1ポイント上がっている。 取組指標は、3.3→3.7の回答であった。学級活動を通して、仲間と高め合う活動にすすんで取り組んでいることがわかる。	・日常の子供たちが、自分の考えを伝える力を育む取組だと思う。自分たちで話し合い自分の意見を伝えるだけでなく、他の意見も聽き、話し合い、それが実現する経験を重ねることは大切だと感じる。 ・自分の未来について、児童は大人が感じているより、ずっと真剣に考え意識しているのだと思し、3年間子供たちを信じ、色々な取組を行い、評価分析を行ってきた先生方の成果であると感じる。本当にありがたい、学校評議員として総括にかかわらせていただき、光栄に思う。	A	学級活動を通して、問題解決を行い、よりよい学校生活を実現する力を高めていきたい。また、クラブや委員会活動でも、自分たちのためにも学校のためにも、よりよいものを実現するために、活動を工夫する仕組みを児童に提案していただきたい。
			ICT機器の柔軟な活用の推進と、ネットのかかわり方を学び、正しく使えるようにする取組	・タブレット端末の積極的な活用 ・デジタル教科書や、インターネット等からの情報・資料の活用 ・情報モラル教育の充実 ・SNS学校ルールの見直しと周知を行い、適切なデジタルライバース用の推進	3	4 「90%以上の児童が自分の得意なことを考えると回答 3 「80%~90%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答 2 「70%~80%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答 1 「70%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答	4	成績指標「タブレットを活用し、使い方に気を付ける」			

学校教育目標	○よく考える子(知) ○心ゆたかな子(情) ○元気な子(意)(体)	ビジョン	【目指す学校像】	○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校	○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校
			【目指す児童・生徒像】	○自らの人生(運命)を自らの力で切り拓き、これから社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～	
			【目指す教師像】	○「チーム拝二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師	○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力 (知) 自ら学び考え判断し、 協働して問題を解決する ことができる児童の育成			日々の授業を充実させ、全 国学力・学習状況調査の平 均正答率の引き上げを図る。	4 18割以上の教職員が、「授業力スタンダード」に基づく指導を行った。 3 7割以上の教職員が、「授業力スタンダード」に基づく指導を行った。 2 6割以上の教職員が、「授業力スタンダード」に基づく指導を行った。 1 6割未満の教職員が、「授業力スタンダード」に基づく指導を行った。	4	4 「学力調査の平均正答率が国比OP	4	「拝二小授業力スタンダードver.4」を基に全教員が授業を実施した(94%)。6年生対象の全国学力・学習状況調査において、本校児童の平均正答率は、国語が74%(全国67.7%)、算数が66%(全国63.4%)だった。	国語、算数共に全国平均を上回っており、取組が成果として表れている。	A	拝島二小の全学年と共に通じている課題として、学力の二極化が挙げられる。引き続き、授業改善、朝学習の取組や家庭学習の習慣化などに力を入れ、確かな学力を定着させる必要がある。
			言葉の力で獲得した知識を生かして自分の思いを論理的に表現できる児童を育成する。	4 8割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行なった。 3 7割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行なった。 2 6割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行なった。 1 6割未満の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行なった。	4	4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上 3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上 2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上 1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満	4	「拝二小授業力スタンダードver.4」を基に授業を実施する中で、全教員が意識して、児童が考えを深め表現する場の設定を行なってきた(89.4%)。朝学習も校内で統一し、継続して取り組む中で、その成果が表れつつある。	高ポイントでの結果が出ている。	A	今後も児童が考えを深め、表現する場の設定をはじめ、10チャレや文章表現の学習など、各学年に対応した適切な指導を授業全般を通して実践していく。
			学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。	4 18割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行なった。 3 7割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行なった。 2 6割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行なった。 1 6割未満の教職員が、授業実践における振り返りを行なった。	4	4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上 3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上 2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上 1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満	4	全教員が主に学びのスパイラルや、その中の学習環境において「授業で学んだことを生活に生かす」と意図的に指導してきた。しかし、成果指標は74.7%であり、更に新たな取組を考えいく必要がある。	引き続き、取り組んでいくことを希望します。	A	児童が学んだことを、いかに生活に生かすのかを、各教科、特別活動、特別の教科道德を通して指導していく。更に、「学習の振り返り」の時間を確保し、セルフモニタリング、セルフコントロールする力を育成する。
			不登校児童を減らし、全ての児童が安心して登校できる学校にする。	4 18割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。 3 7割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。 2 6割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。 1 6割未満の教職員が、不登校対策に取り組んだ。	4	4 不登校の出現回数2割減少 3 不登校の出現回数1割減少 2 不登校の出現回数増減なし 1 不登校の出現回数増加	2	学校いじめ対策委員会、不登校対策委員会を毎月開き、個別の案件にきめ細かく検討・対応しているが、家庭的な問題もあり、すぐには解決に至らない案件が多い。しかし、のびのびルームの活用などで改善も見られている。	学校対応だけでは、限界がある。学びの機会の充実を図ってください。場所も確保してください。中学とも連携をお願いします。	B	不登校児童に対してはオンライン授業の実施や「のびのびルーム」の利用などを勧め、継続して、児童と社会のつながりが断たれることのないように全教職員で取り組んでいく。
豊かな心 (情) 自らの良さを見つめ、 他者を尊重し、共によ り良く生きようとする児 童の育成			学校生活を自ら創り上げる児童を育成する。	4 18割以上の教職員が、「学級力スタンダードver.2」に基づく指導を行なった。 3 7割以上の教職員が、「学級力スタンダードver.2」に基づく指導を行なった。 2 6割以上の教職員が、「学級力スタンダードver.2」に基づく指導を行なった。 1 6割未満の教職員が、「学級力スタンダードver.2」に基づく指導を行なった。	4	4 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上 3 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上 2 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上 1 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満	4	「学校で学んだことを生活や社会に生かす」と意図的に指導してきた。しかし、成果指標は74.7%であり、更に新たな取組を考えいく必要がある。	引き続きの取組をお願いします。	A	今後も、左記の取組を継続とともに、行事や学校生活の中で児童が活躍する場を設け、更なる児童中心の学校づくりを進めていく。
			学校の決まりを守る風土を創り上げる。	4 18割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。 3 7割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。 2 6割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。 1 6割未満の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。	4	4 学校のきまりを守っていると実感する児童70%以上 3 学校のきまりを守っていると実感する児童60%以上 2 学校のきまりを守っていると実感する児童50%以上 1 学校のきまりを守っていると実感する児童50%未満	4	年度や学期の始めにおいて全校で統一した「学校のきまり」を児童に指導している。また、問題行動が見られた際においても、教員が共通理解をもって、決まりの意味や意義を児童に説いていく。	成果が出ているので、引き続きの取組をお願いします。	A	教員と児童とで、きまりの意味を考えるだけでなく、児童会や児童会相互でお互いが過ごしやすい学校を作り上げていく上を目指し、指導をしていく。
			日々の授業の充実を基に、 体育の授業が好きな児童を 増やす。	4 18割以上の教職員が、「授業力スタンダード体育編」に基づく指導を行なった。 3 7割以上の教職員が、「授業力スタンダード体育編」に基づく指導を行なった。 2 6割以上の教職員が、「授業力スタンダード体育編」に基づく指導を行なった。 1 6割未満の教職員が、「授業力スタンダード体育編」に基づく指導を行なった。	3	4 運動が好きになったと実感できる児童70%以上 3 運動が好きになったと実感できる児童60%以上 2 運動が好きになったと実感できる児童50%以上 1 運動が好きになったと実感できる児童50%未満	4	「拝二小授業力スタンダード体育編ver.2」を基に全教員が授業を実施してきた。成果は表れているが、(80.2%)コオーディネーションレーニングについては、取組を更に充実させていく必要がある。	取組の成果は表れている。継続して取り組んでいってください。	A	まずは教員がコオーディネーションレーニングを習得するために、研修を実施するなど、共通理解を図る。体育の授業に浸透させていくために拝二小版授業力スタンダード体育編ver.2の共通実践を進めていく。
			児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。	4 18割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。 3 7割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。 2 6割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。 1 6割未満の教職員が、体力向上のための取組を実施した。	3	4 Tスコアを都平均以上にする。 3 Tスコアを都平均にする。 2 Tスコアを都平均より-1%にとどめる。 1 Tスコアを都平均より-2%にとどめる。	4	Tスコアは、ほとんどの学年で都平均を上回った。体力テストの振り返りや、体育科の授業実践などの取組が結果につながっていると考えられるが、取組指標の結果から、まだ改善の余地がある。	体力テストで良い結果が出ているので、引き続き充実した取組を期待します。	A	今までの取組が結果に結びついているため、取組を継続すると共に、体力調査の結果による課題分析・解決策の実施など、体育部を中心に更なる工夫改善をしていく。
健やかな体 (体) 自らすすんで心と体を きたえ、たくましく生き る児童の育成			家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の向上を目指す。	4 18割以上の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。 3 7割以上の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。 2 6割以上の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。 1 6割未満の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。	3	4 生活改善を実感する児童70%以上 3 生活改善を実感する児童60%以上 2 生活改善を実感する児童50%以上 1 生活改善を実感する児童50%未満	3	結果より「元気アップガイドブック」の取組は、全教員に浸透しているとは言えない(68.4%)。また、生活改善を実感している児童もあと一歩目標に届いていない。(69.1%)。	継続して取り組んでいくことを希望します。	B	保健部の「すっきりカード」と体育部の「元気アップカード」を活用して生活習慣の改善を呼びかけ、保護者の協力も得ながら推進していく。
			昭島市民科や各教科等の充実を図り、地域を担う市民としての愛着を育てる。	4 18割以上の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。 3 7割以上の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。 2 6割以上の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。 1 6割未満の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。	4	4 地域に愛着をもつ児童70%以上 3 地域に愛着をもつ児童60%以上 2 地域に愛着をもつ児童50%以上 1 地域に愛着をもつ児童50%未満	4	本校児童の地域に対する愛着は、校内アンケート87.7%で、強いことが分かっている。また、教職員も昭島市民科や生活科を通して、地域に根ざした授業展開や学習内容を設定しており、そのことも要因であると考えられる。	引き続き、地域に愛着をもつ児童が増えるような取組を継続してください。	A	昭島市民科の授業実践が、さらに定着するよう、本校ではその学習の成果を発表する機会を設けています。その取組を今後も継続していく。
			●SDGsの達成のために社会を変革する主体者として、家庭生活から変えていくとする態度を育てる。 ●地域人材を活用し、人との関わりの中で学ぶ機会を充実させる。	4 18割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。 3 7割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。 2 6割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。 1 6割未満の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。	4	4 社会貢献しようと考える児童70%以上 3 社会貢献しようと考える児童60%以上 2 社会貢献しようと考える児童50%以上 1 社会貢献しようと考える児童50%未満	4	「地域や社会をよりよくするために、何をすべきか考えている」と答えた児童が第6学年で約8割いた。昭島市民科の学習で、社会をより良い方向に変えていくような学習内容を設定した成果と考えられる。	取組の結果が成果として表れている。	A	昭島市民科の学習において、児童の考えが地域貢献に結びつくところまで育つように、更に学習計画を見直し改善していく。
			社会の多様な課題への関心・意欲を高め、自らの将来について考える児童を育成する。	4 18割以上の教職員が、キャリアアルバムを活用して、児童が自らの将来に、夢をもてるように指導する。	4	4 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童80%以上 3 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上 2 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%以上 1 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%未満	4	「キャリアアルバム」の活用は十分に行なったが(100%)、成果指標において、「将来への夢や希望をもつ」と答えた児童が第6学年で約8割いた。昭島市民科の学習で、社会をより良い方向に変えていくような学習内容を設定した成果と考えられる。	継続して取り組んでいくことを希望します。	A	児童が将来に対して、より夢や希望がもてるよう、家庭と学校での連携の在り方を検討する。また、キャリア教育などを充実させていく必要がある。

令和6年度

昭島市立拝島第三小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	○かしこ ○やさしく ○つよく	ビジョン	【目指す学校像】	・子供にとって安全・安心の学校・保護者や地域とともに子供を育てる学校・教職員が互いに高め合う学校
			【目指す児童・生徒像】	・よく考え工夫する児童・相手のことを考え、助け合う児童・明るく元気な児童
			【目指す教師像】	・質の高い指導を創造できる教師・児童同士、教師同士が響き合い、感動とあこがれを創出できる教師・児童、保護者、地域に貢献する仕事を自覚する教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学校全体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実、学力向上を図る。 授業のユニバーサルデザイン化を推進し、学習意欲と学力の向上を図る。 タブレットPCの積極的な活用とキャリア教育の推進	①「問題解決型」の徹底 ②「学習スタンダード」の徹底 ③朝学習の週5回実施 ④ICT機器の活用	4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った。 3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った。 2 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った。 1 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった。	4	4 児童アンケートで「主体的に学習した」が8割以上 3 児童アンケートで「主体的に学習した」が7割以上 2 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割以上 1 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割未満	3	全教員が「問題解決型」の徹底や「学習スタンダード」の徹底、ICT機器の活用を行なったが、アンケートで主体的に学習したと回答した児童は72%であった。	児童が主体的にになれない理由をしつかり把握して、今後の授業に活用してほしい。	B	全国の学力調査結果について、さらに精査し分析して、学力の維持向上に努めていく。
			①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業 ④本領発揮プログラムの活用	4 ユニバーサルデザインチェックリストの全てに取り組んだ。 3 ユニバーサルデザインチェックリストの8割以上に取り組んだ。 2 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以上に取り組んだ。 1 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下に取り組めなかった。	4	4 児童アンケートで「分かりやすい」が8割以上 3 児童アンケートで「分かりやすい」が7割以上 2 児童アンケートで「分かりやすい」が6割以上 1 児童アンケートで「分かりやすい」が6割未満	4	全教員が昭島市のユニバーサルデザインの冊子を基に、誰にとっても、やさしい教室環境、分かりやすい授業を心掛けた。7月に行った児童の学校アンケートでは、「学校の授業は分かりやすい」という肯定的評価が78.5%であった。	市のユニバーサルデザインについて、教員の理解向上に向けて、引き続き研修等を実施していく。	A	ユニバーサルデザインについて、教員の理解向上に向けて、引き続き研修等を実施していく。
			①プログラミング学習に関わる授業(年5回以上) ②キャリア・パスポートに関わる指導(年3回) ③オンライン授業(年3回)	4 全ての教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 3 8割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 2 7割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 1 6割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。	4	4 児童アンケートでオンライン授業への肯定的評価が8割以上 3 児童アンケートでオンライン授業への肯定的評価が7割以上 2 児童アンケートでオンライン授業への肯定的評価が6割以上 1 児童アンケートでオンライン授業への肯定的評価が6割未満	4	1学期にオンライン授業を実施した。児童へのアンケートでは、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うこと」に対する肯定的評価が85%であった。	調べ学習やオンライン授業などでの活用有意義な面。けじめある使用の徹底もお願いします。	A	次年度も引き続きオンライン授業やプログラミング学習等、ICT教育の推進を図る。
豊かな心	学校全体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	児童の自己肯定感を高め、個々の良さを發揮できるように、学級活動を実施する。 教育活動全体を通して、道徳的実践力を身に付けさせる。 学校図書館を活用し、読書の啓発に取り組む。	①校内研究の推進 ②生活スタンダードの徹底 ③QUテストの活用	4 全ての教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った。 3 8割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った。 2 7割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った。 1 6割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った。	4	4 WEBQUテストの結果で安定感のある学級が3割以上 3 WEBQUテストの結果で安定感のある学級が2割以上 2 WEBQUテストの結果で安定感のある学級が1割以上 1 WEBQUテストの結果で安定感のある学級が1割未満	4	WEBQUテストの結果、安定感のある親和的な学級が全体の5割以上との結果が出た。学校全体も落ち着いた雰囲気で、挨拶もよくできようになっていた。また、全学年で情報モラル教育に取り組むことができた。	様々な友達との活動から、コミュニケーション能力を高め、情緒を大切に育んでいきたいです。	A	教科担任制の成果と課題を精査し、検証していくとともに、たてわり班活動等、特別活動を充実させていく。
			①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③児童が考え議論する道徳	4 全ての教員が、道徳の時間の指導を改善した。 3 8割の教員が、道徳の時間の指導を改善した。 2 7割の教員が、道徳の時間の指導を改善した。 1 6割の教員が、道徳の時間の指導を改善した。	4	4 児童アンケートで「学校が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「学校が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートでは「学校は楽しい」と肯定的に回答している児童が、86%であった。毎月、スクールカウンセラーや教えて、学校いじめ対策委員会を定期的に開き、児童の実態把握やトラブルの早期解決を結び付けることができた。	家庭で規範意識を身に付けさせるのが難しい時代だけに、道徳の授業が大切だと思います。	A	毎月のいじめ・不登校の実態を確認し、迅速かつ組織的な対応を継続して取り組んでいく。
			①学校図書館の利用(週1回) ②読書旬間の実施(年3回) ③人権教育を推進する図書の購入	4 全ての学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 3 8割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 2 7割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 1 6割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。	3	4 8割の児童が年間20冊以上の本を借りた。 3 7割の児童が年間20冊以上の本を借りた。 2 6割の児童が年間20冊以上の本を借りた。 1 年間20冊以上の本を借りた児童が6割未満	3	1月中旬までは、貸出冊数は、2184冊となり、一人当たり、36.4冊となっていました。読書旬間等、学校全体での取り組みにより昨年度同時期より、2000冊以上の増加となっている。	一人一台タブレットの時代での、電子図書のライブラリーを作るなど、図書室に行かなくても読書ができる環境作りも必要になってくるのではないかと思います。	B	学校全体での取組を引き続き実施し、さらに高学年児童の読書習慣の定着を目指していく。
健やかな体	学校全体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	運動能力テストの結果を基に成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進める。 日常的な運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。 安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育む。	①体力向上プラン(9月改訂) ②コロナ禍でも可能な運動の推進 ③運動週間(年3回)	4 全教員が体力向上プランを活用した指導を行った。 3 8割以上の教員がプランを活用した指導を行った。 2 7割以上の教員がプランを活用した指導を行った。 1 7割未満の教員がプランを活用した指導を行った。	4	4 児童アンケートで「運動が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「運動が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートでは、85%の児童が「運動は楽しい」と肯定的に回答している。夏以降、運動会への取り組みや民間委託での水泳指導等、運動する機会が増え、児童の体力向上に向けてのからだきうきワーク等、学校全体での取り組みも計画的に進めることができた。	体を動かすことが大好きな児童が多く、運動会のパフォーマンスも最後まであきらめず走り続けるなど、各々が頑張っていた。	A	体育の活動時間の確保や休み時間の外遊びの奨励等、児童の体力増進を図る取組を計画的に位置づけていく。
			①元気アップカードの活用 ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 全教員が元気アップカードを活用した指導を行った。 3 9割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った。 2 8割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った。 1 8割未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行った。	4	4 7割以上の児童が目標を達成している 3 6割以上の児童が目標を達成している 2 5割以上の児童が目標を達成している 1 15割未満の児童が目標を達成している	3	今年度のテストでは学校全体として数値の下落が見られた。目標達成に関しては多くの児童が自分の立てた目標や期待値を下回っている。	運動習慣は、幼い時からの体験が継続となるので、特に低学年で運動の機会を与えて、習慣化するようなプログラム作り、低学年の運動強化が必要。	B	児童の取組目標を見直し、学校全体での外遊びの励行や体力づくりの働きかけなど、継続的に実施していく。
			①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(年11回) ③安全指導日の指導(年11回)	4 全ての教員が、安全指導を計画的に行なった。 3 9割の教員が、安全指導を計画的に行なった。 2 8割の教員が、安全指導を計画的に行なった。 1 7割の教員が、安全指導を計画的に行なった。	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4	避難訓練について、工夫改善を行い、警察と連携した不審者対応訓練や管理不職不時を想定した場合も実施でき、年間の安全指導について、全教員で確認し、計画的に進めている。	訓練を通しての身の安全の確保を児童に教え、体験することが、身に付けるために効果的であると思う。	A	警察と連携しての不審者対応訓練等を実施することができたので、来年度も計画的に取り組んでいく。
輝く未来	学校全体として組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます	話し合い活動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育む。 教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。 保護者や地域と連携し、行事活動を充実させる。	①学級会活動(年10回以上) ②課題解決型学習の重視 ③タブレットPCの活用	4 全ての学級が、タブレットPCでの意見共有を行った。 3 8割以上の学級が、タブレットPCでの意見共有を行った。 2 6割以上の学級が、タブレットPCでの意見共有を行った。 1 タブレットPCでの意見共有を行った学級が6割未満。	4	4 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が6割未満	3	児童アンケートで、94%の児童が「話し合い活動が楽しい」と回答した。2学期、3学期にすべての学級でオンライン授業を行ない、ICTの活用について、進めることができた。	タブレットPCでの意見交換等、時代に即している授業を通して、相手の意見を尊重する心を身に付けてほしいと思っています。	B	児童間でのトラブルに対して、迅速かつ適切な対応を図れるように、学校体制でのフォローを行っていく。
			①各学年で外部人材を活用した授業を実施した。 ②学年の発達段階に応じた実現可能な交流プログラムの作成	4 全学年で外部人材を活用した授業を実施した。 3 9割以上の学年で外部人材を活用した授業を実施した。 2 8割以上の学年で外部人材を活用した授業を実施した。 1 外部人材を活用した授業を実施した学年が6割未満。	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4	全学年で外部人材を活用した授業を行なうことができた。また、校外学習として、近くの施設に出かける等、学習を進めることができた。校内研究で、コミュニケーション・ツールが始まり、地域への学習に興味、関心をもつ児童が増えた。(87.7%)	様々な分野のゲストを招いた授業が充実してきている。先生方と関係者の連携が強くなっていることが子供たちのより良い学習に結びついていると思います。	A	外部人材との交流体験を計画的に実施することができた。次年度は、更に広げていくように計画・立案を進める。
			①PTAや地域と連携して運動会・学習発表会・研究発表会を行なう。 ②PTAや地域と連携し安全見守り活動の強化を行う。	4 PTAや地域と年4回以上の連携ができた。 3 PTAや地域と年3回以上の連携ができた。 2 PTAや地域と年2回以上の連携ができた。 1 PTAや地域との連携は年2回以下だった。	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4	コミュニケーション・スクールとして、10月の運動会、11月の展覧会、9月と1月の挨拶運動等、PTAとの連携を順調に進めることができた。	コミュニケーション・スクールとして、運動会が進み、拌三小の特性が發揮できるように期待しています。	A	コミュニケーション・スクールとしての組織体制づくりの充実を図っていく。

学校教育目標	夢への挑戦 ～ 広げよう可能性 高めよう創造性～	ビジョン	【目指す学校像】	①知・徳・体をバランスよく育む学校 ②落ち着いた中にも活力がある学校 ③環境が整った安心・安全な学校 ④家庭・地域とのつながりを大切にする学校
			【目指す児童・生徒像】	①自ら考え深く学ぶ生徒 ②自他ともに大切にできる生徒 ③やり抜くことができるたくましい生徒
			【目指す教師像】	①豊かな人間性を備え、生徒の範となる教師 ②生徒と正面から向き合い、信頼される教師 ③「できて・わかって・楽しい」授業ができる教師 ④組織の一員として学校運営に貢献できる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的な方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学びに向かう力と人間性等を養う。		目標の明示と振り返りの活用から指導と評価の一体化による学力を定着させる。	4 毎時間目標を明示し、振り返りを工夫した。 3 8割以上の授業で目標を明示し、振り返りを工夫した。 2 5割以上の授業で目標を明示し、振り返りを工夫した。 1 目標を明示し、振り返りを工夫した授業は5割未満	4	4 「授業をよく理解できた」と答える生徒が90%以上 3 「授業をよく理解できた」と答える生徒が70%以上 2 「授業をよく理解できた」と答える生徒が50%以上 1 「授業をよく理解できた」と答える生徒が50%未満	4	授業がとても分かりやすい、分かりやすい合計が93%だった。全校での授業改善が活かされている。	工夫・改善の成果が現れている。	A	教科によって差異があるので、平均的に高い数値にする。
			思考力・判断力・表現力の育成を図り、自分の考え方を他者に伝える力を育む。	4 9割以上の授業で表現力指導を徹底した。 3 8割以上の授業で表現力指導を徹底した。 2 5割以上の授業で表現力指導を徹底した。 1 表現力指導を徹底した授業は5割未満。	3	4 「表現力がついた」と答える生徒が90%以上 3 「表現力がついた」と答える生徒が70%以上 2 「表現力がついた」と答える生徒が50%以上 1 「表現力がついた」と答える生徒が50%未満	3	授業で表現力を發揮している生徒は76%程度だった。概ね表現に慣れてきたが、英語等ではあと一歩である。	積極的に対応しているように思われるが、保護者アンケートでやや否定的な意見があることが気がかり。	B	教科の特性もあるが、どの教科でも話し合い活動の時間を取り工夫をする。
			主体的に学習に取り組む態度の育成と家庭学習の定着を図る。	4 学習習慣定着のための指導を確実に実施した。 3 学習習慣定着のための指導を概ね実施した。 2 学習習慣定着のための指導を時々実施した。 1 学習習慣定着のための指導をほとんどできなかった。	3	4 「家庭学習の時間が「4時間以上」が最も多い 3 「家庭学習の時間が「4時間未満」が最も多い 2 「家庭学習の時間が「3時間未満」が最も多い 1 「家庭学習の時間が「2時間未満」が最も多い	2	3時間以上、2時間以上ともに10%以上存在していたが、1~2時間の分布がやや多かった。生徒によって大きく異なる。	家庭学習の指導も充実していると思われるが、1学年の家庭学習時間がやや減っているのが心配。	B	シラバスの活用だけでなく、定期考査前の学習計画表の効果的な活用を図っていく。
豊かな心	全教育活動を通じて、人権教育・心の教育を推進し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる豊かな人間性を育む。		全教育活動を通じて生徒の努力を認め、自己有用感を育み自尊感情を高める。	4 勇気づけ、ほめる指導の実践が定着した。 3 共感し、認めることで助言につなげた。 2 共感し、認める努力をした。 1 共感・勇気づけより、結果重視の言葉になった。	4	4 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が80%以上 3 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が60%以上 2 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が40%以上 1 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が40%未満	4	良さを認め伸ばしてくれていると感じている生徒が約85%だった。勇気づけ言葉が浸透している。	教員と生徒の信頼関係がでている。日頃の指導の成果である。生徒が認められていると感じている。	A	勇気づけ言葉を引き続き活用していく。
			考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	4 様々な場面で内容項目を価値付けて指導した。 3 発問を工夫することで内容項目を深められた。 2 教材研究で内容項目を理解したが十分深められなかった。 1 教材研究で内容項目の理解が不十分だった。	3	4 道徳の授業で自分の考えを深められた生徒が80%以上。 3 道徳の授業で自分の考えを深められた生徒が60%以上。 2 道徳の授業で自分の考えを深められた生徒が40%以上。 1 道徳の授業で自分の考えを深められた生徒が40%未満	4	毎回の道徳で概ね90%以上の生徒が自分の考えを深めることができた。話し合う道徳が定着している。	よりよい道徳授業が浸透していると思われる。	A	今以上にICTを活用した話し合う道徳を進めていく。
			未然防止に努めながら、いじめへの適切な対応と個に応じた不登校対応を充実させる。	4 いじめ問題にすぐに対応し、早期解決を図った。 3 いじめ問題にすぐに対応したが、対応は継続している。 2 いじめ問題の対応が遅れたが、解決できた。 1 いじめ問題の対応が遅れ、解決できていない。	4	4 落ち着いて安心して学校生活ができる生徒が90%以上 3 落ち着いて安心して学校生活ができる生徒が80%以上 2 落ち着いて安心して学校生活ができる生徒が70%以上 1 落ち着いて安心して学校生活ができる生徒が70%未満	4	落ち着いて安心して生活できる生徒がほぼ90%だった。ハートフルの言葉が浸透している。	教員の取組が生徒に良く伝わっていると思われる。	A	引き続き生徒の心に寄り添う教育活動を進めていく。
健やかな体	心身共にたくましく、健やかな生徒の育成を図り、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を築く。		体育的な活動を効果的に実施し、体力向上と生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。	4 生徒の目標達成のために積極的に支援した。 3 生徒の目標達成のために支援した。 2 生徒の目標を理解し助言した。 1 生徒の目標を十分把握できなかった。	3	4 体力テストで全学年が都標準以上 3 体力テストで2つの学年が都標準以上 2 体力テストで1つの学年が都標準以上 1 体力テストで全学年が都標準未満	2	ほぼ平均であったが、男女別でやや上回る、やや下回るが混在していた。全体的な課題は敏捷性(反復横跳び)だった。	部活動で関東大会に出る生徒がいる一方で、体力テストの結果が低い項目があるのが意外である。	B	体力テスト結果を分析して、保健体育の授業改善に活かしていく。
			未然防止を重視し、安全教育・防災教育の推進と命を大切にする心の教育を推進する。	4 命の大切さと安全・安心な学校生活を指導・徹底している。 3 命の大切さと安全・安心な学校生活を指導している。 2 命の大切さと安全・安心な学校生活を心がけている。 1 命の大切さと安全・安心な学校生活を指導できていない。	4	4 命の大切さを理解し、自助・公助の精神が身に付いた。 3 命の大切さを理解し、自助・公助の大切さを理解した。 2 命の大切さを理解し、自助を心がけている。 1 命の大切さを理解し、自助について理解した。	4	「自分や友達を大切にしている」の項目で、そう思う、とてもそう思うが96%だった。風土ができている。	自分の命を大切にする指導の充実とともに、仲間を大切にされていることは素晴らしいと思う。	A	引き続き命を大切にする指導と、安心・安全な学校生活のための指導を継続していく。
			SNSの活用について考え方、規則正しい生活を送らせる。	4 SNSルールの徹底を家庭に指導した。 3 SNSルールを学級で指導・徹底した。 2 SNS家庭ルールの作成を家庭に指導した。 1 SNS学校ルールを学級で指導した。	3	4 SNSルールが定着した生徒が80%以上 3 SNSルールが定着した生徒が50%以上 2 SNSルールを意識している生徒が50%以上 1 SNSルールを意識している生徒が50%未満	4	「学校で学んだルールを生活で生かしている」で、そう思う、とてもそう思うが81%だった。全校の指導が生きている。	しっかりと指導されている一方で、SNSの時間のルールが守られていない生徒がいる。	A	学校での指導とともに、家庭への啓発を工夫していく。
輝く未来	学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係を築き、生徒一人一人に応じた指導・支援を図る。		年間を通じた計画的な教育相談面談の実施と、教師によるカウンセリングを充実させる。	4 定期面談・随時面談・QUのすべてを活用、実施した。 3 定期面談・随時面談を実施した。 2 定期面談のみ実施した。 1 定期面談・随時面談・QUのいずれも活用、実施できなかった。	3	4 先生に相談すると安心できる生徒が80%以上。 3 先生に相談すると安心できる生徒が60%以上。 2 先生に相談すると安心できる生徒が40%以上。 1 先生に相談すると安心できる生徒が40%未満。	3	相談できる先生がいて、安心感を持っている生徒が約79%だった。寄り添った指導をさらに高めていく。	安心して通えていると思う。安心感が持てる大人と子供の関係を、今後も期待したい。	A	教員が生徒にとって、より相談できる大人であるよう関係をつくっていく。
			キャリア教育の計画的な推進と夢の実現に向けて努力する生徒を育成する。	4 キャリア教育を通して夢を実現する計画づくり指導した。 3 計画的キャリア教育で将来の自分を考えさせた。 2 キャリア教育を通して自己の良さや適性を考えさせた。 1 キャリア教育を通して働くことの大切さを考えさせた。	3	4 将来の夢に向けて具体的に計画を作成した。 3 将来の夢について考え、目標を持つことができた。 2 将来の夢を自分で考えることができた。 1 将来のことをほとんど考えることができなかった。	3	自分の将来を考え、向いていることを考えている生徒は約80%だった。系統だったキャリア教育が概ね生きている。	キャリア教育もうまくいっているように見受けられる。	B	引き続き系統だったキャリア教育を進めていく。
			生徒理解に基づき、個への配慮が必要な生徒への支援を充実させる。	4 日常的な特別支援教育の啓発と推進を実践した。 3 日常的な特別支援教育を理解し実践した。 2 日常的な特別支援教育を理解した。 1 日常的な特別支援教育の理解が不十分だった。	3	4 先生は一人一人のことを考えてくれると感じる生徒が80%以上。 3 先生は一人一人のことを考えてくれると感じる生徒が60%以上。 2 先生は一人一人のことを考えてくれると感じる生徒が40%以上。 1 先生は一人一人のことを考えてくれると感じる生徒が40%未満。	3	教員に対して肯定的に感じている生徒は約85%だった。丁寧に向き合った姿勢が活かされている。	教員に対する生徒の気持ちも問題ない。日頃の指導の成果を感じる。	B	より生徒一人一人の状況や特性に寄り添ったかかわりを意識していく。

学校教育目標	○希望 ○創造 ○潤い	ビジョン	【目指す学校像】	○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心でき、信頼し、躍進できる学校
			【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、自ら考える生徒 ○他を思いやり、支え合う生徒 ○責任をもち、やりぬく生徒
			【目指す教師像】	○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	確かな学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。	言語活動や協働学習を通した深まりのある指導を実践する。	授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」4ステップ授業を定着する。	4 深まりにつながる授業を行った 3 「深める」ための授業の工夫を行った 2 主体的で対話的な授業の工夫を行った 1 個と集団を意識した授業を行った	2	4 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上 3 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が80%以上 2 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%以上 1 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%未満	2	教え合いを活動を進め、さらに深まりを感じる授業をしていく。生徒が自ら探究するのに加えて、日常の生活と関連付けた発問の工夫を行った。	4ステップの授業を行い、引き続き、生徒が主体となって対話的学習をして内容の理解を深めてほしい。	C	深まりにつながる基礎基本の徹底の授業を進める。探究的な課題の設定や発問の工夫により、「深める」時間を設ける。
			考えを深めるための読み解き力と表現力を身に付けさせる。	4 深く読み、表現する授業を毎時間展開した 3 深く読み、表現する授業を7割以上行った 2 授業では自分の考えを書く 1 授業では読むこと書くことを大切にした	2	4 考え発表する体験が多いと感じた生徒が80%以上 3 考え発表する体験が多いと感じた生徒が70%以上 2 考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%以上 1 考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%未満	2	考え発表できる生徒を増やしていく。生徒たちが協働して活動する場面や、生徒一人一人が発表する取組を行い、話合い活動を活発にできた。	多くの生徒が発表の場を設けることで、深く読むこと考えを表現する場面を増やしていく。	C	苦手意識のある生徒へのアプローチを工夫する。また発表しやすい雰囲気を醸成していく。
			主体的な学習習慣を基に、主体的に学びに向かう態度を養う。	4 毎時間の振り返りを次時に生かす指導を行った 3 每時間のねらいと既習事項を関連付けた振り返りを行った 2 每時間ねらいを示し、振り返りを行った 1 授業のねらいと振り返りを時々行つた	3	4 主体的な学習習慣が定着した生徒が90%以上 3 主体的な学習習慣が定着した生徒が80%以上 2 主体的な学習習慣が定着した生徒が50%以上 1 主体的な学習習慣が定着した生徒が50%未満	3	課題を小まめに出すことで、家庭学習の定着を図った。生徒一人一人が必ず発表する形をとり、他者と協働して発表内容をつくることができ、主体的な学びを進められた。	ICT機器を活用しながらも、ねらいを示しながら生徒主体の振り返りができるように取り組んでほしい。	B	課題の出題頻度を増やし、家庭学習の定着を図る。目標と振り返りを記録させ、学習に生かしていく。
豊かな心	自己有用感を高めることで自尊感情を育み、お互いを大切に尊重できる人間関係を構築する。	考え方、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	①全教員が道徳授業を行なう。②全教科で内容項目に関連付けて指導する。	4 生徒が考え、気付きのある発問を工夫した 3 教材解釈と教材の工夫を十分に行なった 2 計画通りに22の内容項目を全て扱った 1 自分で教材理解をして年間35時間行なった	3	4 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が80%以上 3 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が70%以上 2 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が50%以上 1 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が50%未満	3	全教員が実践し、考えを深める指導は継続する。発問は、毎回のワークシートで学年の実態に応じた授業づくりを行い、生徒が考え、気付きのある発問の工夫をした。	道徳公開は各学年で充実している。教材の工夫を進め、生徒の考え方や意見を重点に取り組んでほしい。	B	生徒自身に気付きの時間を十分にとる。発問を工夫し、傾聴や意見を共有できる授業をする。
			一人一人を大切に尊重し、努力を認めて褒め言、実行、賞賛する生徒育成サイクルによる指導を実践する。	4 生徒育成サイクル指導の実践が定着した 3 倾聴、共感、認める、助言、実行、賞賛するから助言につなげた 2 倾聴、共感をし、認める努力をした 1 倾聴せずに、すぐ指導・説教をする	3	4 教員は良さを認め伸ばしてくれる生徒が90%以上 3 教員は良さを認め伸ばしてくれる生徒が85%以上 2 教員は良さを認め伸ばしてくれる生徒が50%以上 1 教員は良さを認め伸ばしてくれる生徒が50%未満	3	丁寧な生徒指導を意識し、多様性の尊重や傾聴、共感をし、認めるから助言につなげた。生徒の個性を大切にしつつ、努力をしたタイミングで賞賛し自尊感情を育んだ。	生徒育成サイクルを進め傾聴、共感の姿勢を実践して、一人一人の大切さを感じさせるようにしていく。	B	やり取り帳の活用、コミュニケーションを大切にしていく。生徒が主体となってできる活動を取り入れていく。
			気持ちよい挨拶や返事を通して、お互いが快適に過ごせる人間関係を築く。	4 校内外では教員自ら挨拶や声かけを行なった 3 校生活での挨拶・返事が徹底した 2 授業中の挨拶・返事が徹底した 1 挨拶・返事の指導を時々行つた	3	4 校内外で、すくんで挨拶できる生徒が80%以上 3 校内でも、挨拶・返事ができる生徒が80%以上 2 校内でも、挨拶・返事ができる生徒が50%以上 1 校内でも、挨拶・返事ができる生徒が50%未満	3	すくんで挨拶ができる生徒はいる。挨拶の良さや必要性を伝えてはいるが、まだ定着できない。教員からの挨拶は継続して行なっている。	校内での挨拶はよくしている。学校外でも進んで挨拶する習慣、大切さを伝える取組をしてほしい。	B	継続して指導していく。校内や校外でも教員自ら生徒に挨拶をする。気持ちの良い言葉遣いの指導をする。
健やかな体	自らの生活を健康的で健全にするために、体力向上を図り、規則正しい生活を送る。	年間を通して健康に過ごすための基礎体力・持久力の向上を図る。	一人一人に体力向上における目標を設定させ、主体的に運動する習慣を身に付ける。	4 一つ一つの運動の効果や取組方法を徹底指導した 3 体力向上のために個に応じた方法を指導した 2 体力向上の意義と取組み方法を指導した 1 体力向上のための指導した	3	4 運動を主体的に取り組む生徒が90%以上 3 運動を主体的に取り組む生徒が70%以上 2 運動を主体的に取り組む生徒が50%以上 1 運動を主体的に取り組む生徒が50%未満	3	保体の授業では全体と個人の目標をそれぞれもたせ、目標達成に向けて取り組ませている。持久力について指導の効果が現れてきている。	部活動等でも運動する習慣の大切さを教えてほしい。継続して健康に過ごすための取組方法を指導していく。	B	授業、部活動でも継続して指導やサポートをしながら、生徒が主体的に取り組める工夫を進めていく。
			食事や睡眠を大事にし、自らの健康増進に努める生徒を育てる。	4 学級で食の大切さと残さず食べる指導を徹底した 3 学級で食の大切さと残さず食べる指導をした 2 学級で残さず食べる指導に取り組んだ 1 学級で食育指導を定期的に行なった	3	4 全校で1か月の平均残業率が5%以下 3 全校で1か月の平均残業率が7%以下 2 全校で1か月の平均残業率が8%以下 1 全校で1か月の平均残業率が8%前後	3	栄養士から給食の時間に食育につながる話をながした。残食を減らせるよう、声掛けや配膳している。バランスのとれた食事が健康増進につながることを生徒に伝えられた。	引き続き、健康的で規則正しい生活を送るために、食の大切さ、睡眠の必要性を指導していく。	B	委員会と栄養士を連携しながら、食事の重要性や食物や作ってくださる方への感謝ができる取組を進める。
			SNSの利活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	4 SNSルールの徹底を家庭に指導した 3 SNSルールを学級で指導・徹底した 2 SNS家庭ルールの作成を学級で指導した 1 SNS学校ルールを学級で指導した	3	4 SNSルールが定着した生徒が80%以上 3 SNSルールが定着した生徒が50%以上 2 SNSルールを意識している生徒が50%以上 1 SNSルールを意識している生徒が50%未満	2	SNSの利用は、三者面談での話題、学年集会や学年通信を通じて注意喚起や指導を行なった。また自分を守るために大切なことを考えさせる指導を行なった。	学校、家庭ともにルールが定着できるように取り組んでいく。正しい使い方を継続して指導してほしい。	B	正しいSNSの利用方法や端末の長時間使用に伴う視力低下やストレートネック等の予防に関する指導を行う。
輝く未来	家庭・地域との連携を進め、将来にむけて確かな夢をもてるような人格形成を図る。	学校・家庭・地域との連携を深めるために情報発信を行い、意見を求める。	学校・学年だよりの発行、ホームページの更新を毎月行い、読者意見に丁寧に対応する。	4 毎月発行・更新し、地域からの意見に対応した 3 学校・学年だよりとHP更新は毎月1回以上行なった 2 学校・学年だよりは毎月1回以上発行した 1 学校だよりは毎月1回以上発行した	3	4 学校の教育活動に安心している保護者が90%以上 3 学校の教育活動に安心している保護者が80%以上 2 学校の教育活動に安心している保護者が60%以上 1 学校の教育活動に安心している保護者が60%未満	3	定期的に、学年だよりを発行し、生徒・保護者に学年の方向性を取組を発信した。保健だよりで月1回、生徒の健康増進に向けた情報の啓発を行なった。	学校だよりにより、学校の様子が伝わってくる。家庭との信頼を深めるため、情報発信を継続していってほしい。	B	学年だより等を定期的に、情報発信を継続していく。情報の取り扱いについて注意しながら、発信を行なっていく。
			キャリア教育によって夢をもち、実現に向けて努力する生徒を育成する。	4 将来の夢の実現に向けた計画づくりを指導した 3 将来の自分を考えさせる指導を行なった 2 自分の良さや適正を知る指導を行なった 1 働く意義や職業について考えさせる	3	4 夢に向けてキャリアプランを作った生徒が50%以上 3 将来の夢を具体的に考えた生徒が80%以上 2 将来の夢を見付けるために進路学習を行なった 1 将来の夢を見付けるために進路先を考えた	3	総合的な学習の時間等を通じ、将来の展望についての実践を図ることができた。職場体験、進路学習を通して、将来の生き方を考える時間を設けることができている。	職場体験の継続と充実や、将来の自分を考えながら、夢を具体的にもてるような場を継続して作っていく。	B	進学だけではなく、将来を考えられる指導を行う。興味がある物や夢について考えさせる授業を行う。
			9年間を見通した計画的な指導を行い、地域との関わりを深めていく。	4 スタンダードを周知・徹底し、小学校との実践を深めた 3 スタンダードを徹底するために家庭協力を求めた 2 スタンダード定着に向けクラスで指導・徹底した 1 スタンダードの内容を生徒に理解させた	2	4 スタンダードを実践し定着した 3 スタンダードを生徒・家庭が実践した 2 スタンダードを家庭が理解できた 1 スタンダードを生徒が理解できた	2	小中連携をもとに、指導に関する考えることができた。授業の進め方は安定し、落ち着いた授業を行うことができた。学校だより等を活用して、周知を行なった。	補導連絡会、地区連絡会等を通して深められている。小中連携を通して情報交換や関わりを深めてほしい。	C	スタンダードを確認した後、共通理解、共通実践を目指していく。

学校教育目標	中期経営目標(3年間)	短期経営目標(1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策					
						【目指す学校像】	・真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校・自主・自立の精神を培うことができる学校・生徒・保護者・地域・教職員が誇りをもてる学校									
						【目指す児童・生徒像】	・すすんで学習に励む生徒・たくましい体力を身につけた生徒・規律と礼儀を重んじる生徒・すすんで働き、協力しあう生徒									
確かな学力	全ての生徒に義務教育終了時に必要な基礎学力を定着させる学力保証の取組の充実	指導方法の工夫改善	ねらいの明示、導入の工夫、振り返り、授業評価を授業で実践する	4 自己評価4段階平均値3.7以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.5以上 1 自己評価4段階平均値3.5未満	4 90%以上の生徒が先生方は授業を工夫していると回答 3 80%~90%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答 2 70%~80%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答 1 70%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答	3 ・授業のはじめにねらいを明示し、プリントやノートに書かせることで、授業内にいつでもねらいを確認できるようにした。導入では前時の振り返りとして口頭試問や動画視聴、小テストを行い、基礎学力の定着を図った。	・成果指標で生徒の評価が高く評価します。 ・自己評価結果については目的をはっきり意識させる良い方法と考える。 ・「振り返り」の取組みや、ねらいの明示で、生徒の学力向上が把握できて、いい取り組みをされています。 ・学習のねらいの明示は、振り返りを行なう際にも基準になり良いと思います。自身の学習内容や結果を振り返ることは、次のステップに繋がると思うので継続して定着化していただきたいです。	B ・授業の振り返りは、定期考査後などに行なった。生徒自身が成果と課題を振り返ることができた。 ・振り返りを考えさせるときに、何のために学び、どんなことと結び付いている学習なのかを明確にしていく。	B ・授業の振り返りは、定期考査後などに行なった。生徒自身が成果と課題を振り返ることができた。 ・振り返りを考えさせるときに、何のために学び、どんなことと結び付いている学習なのかを明確にしていく。							
						3 『家庭学習の記録』を活用したり、宿題の出し方を工夫したりして家庭学習を定着させる	3 4 70%以上の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答 3 50%~70%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答 2 40%~50%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答 1 40%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答	3 ・毎回の授業で出す宿題への取り組み方、直し方への声掛けを行なっている。家庭学習の習慣化によって、さらに積み重ねの学習の大切さにも気づかせるように声掛けをしている。	3 ・家庭の学習では、自主的に行なえるよう習慣付ける指導お願いします。 ・家庭での復習が出来ていない事については、生徒だけでなく保護者とも話し合う事が必要と思う。 ・学習への意欲と、家庭学習が「家庭学習の記録」で把握できる仕組みが、定着していくことを期待します。各家庭の協力があつての取組みです。各家庭の意識の向上が必須です。 ・保護者の声掛けだけでは学習に取り組む意欲を引き出すことが難しい年齢であるが、宿題があることで家庭学習の機会を増やすことができる。 ・家庭学習は家庭環境に大きく左右されることだと思います。生徒自身が意欲的自主的に取り組めることができると良いと思います。 ・家庭学習は、個人差が見られるものだと思います。先生方が家庭学習時間の確保のために、工夫されているので、引き続き指導をお願いしたいです。	3 B ・家庭学習として、毎時間宿題をプリント1枚取り組んでいる。生徒がより知識を定着するため、間違えた問題に再挑戦し、できるまでやり直すことの必要性を伝え、学びを確実なものにしていく。						
						4 自己評価4段階平均値3.4以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.2以上 1 自己評価4段階平均値3.2未満	4 4 90%以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答 3 80%~90%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答 2 70%~80%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答 1 70%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答	4 ・授業前や休み時間、給食準備の時間には教室や学年の廊下にいるようにし、生徒が小さなことでも話しやすく、生徒の異変に気づきやすい環境づくりを行なった。道徳科の授業では、生徒が自分で捉えられるような道徳科の授業を行うことができた。	4 ・生徒に対し日常的に目配りし、授業以外でも先生方が対応していく感心します。昨年も指摘しましたが、先生方も休憩が十分とれる等ゆとりが有っても良いと思います。 ・生徒との距離を短くする事は大事で良い意味の監視になると思われる。 ・教師のコミュニケーション力が問われる取組みですね。授業を参観させていただきましたが、笑顔で話をされていて、生徒が活発に発言されました。 ・先生方は明るく生徒に接し、生徒が相談しやすい環境づくりをされている。道徳の授業では、時代に合った身近な題材をテーマとし、日常生活に生かすことができるよう考えられていました。 ・生徒の様子を見守る先生方の対応が、休み時間や給食の準備の時間まで渡っているのは、本当に頭が下がる思いです。引き続き、生徒の些細な変化に気づき、学年内で共有し、風通しのよい環境づくりをお願いいたします。道徳の授業は、子どもたちの生きる力を培う指導がなされている印象を受けました。参観させていただいて、先生方それぞれのご指導は、どれも工夫されているを感じることができました。	4 A ・生徒とのコミュニケーションを積極的にとることができた。引き続き生徒の様子をよく観察していく。どの生徒とも全力で向き合うことを意識する。						
						4 自己評価4段階平均値3.6以上 3 自己評価4段階平均値3.5以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	4 4 90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答 3 80%~90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答 2 70%~80%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答 1 70%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答	4 ・教科授業内や道徳科や特別活動などでは様々な小グループによる意見交換を行い、意識的に他者の考えに触れる機会をつくるようにした。委員会では生徒の意見を汲み取り、取り組みを企画した。	4 ・思いやりの心をもって行動できる生徒が多いことは頼もしい限りです。グループによる意見交換では多くの生徒が発言できていますか。 ・小グループごとの授業はいろいろな生徒が意見を出しやすく良い方法である。 ・多様な価値観を持った両親の元、生徒も育ちスマホ等からの情報が氾濫している中、生徒が自動的に正しい判断が出来るのは大変な時代の中での取組みに挑戦されていることは素晴らしいです。 ・小グループでの意見交換の時間には、ほとんどの生徒が周囲の友達と考えを伝え合うことができている。また、その考えを躊躇なく学級で発表することができる環境が整えられている。	4 A ・行事委員会や専門委員会では、生徒が自分たちで作り上げたという達成感や実績を得られるように、意見を具現化し、新しい取り組みにつなげていく。						
						4 自己評価4段階平均値3.1以上 3 自己評価4段階平均値3.0以上 2 自己評価4段階平均値2.9以上 1 自己評価4段階平均値2.9未満	4 4 90%以上の生徒が体力が身に付いてきたと回答 3 80%~90%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答 2 70%~80%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答 1 70%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答	3 ・部活動において、他の顧問や保護者との連携を取りながら、個々にあった練習を行い、チーム全体の能力を高めた。 ・保健体育科の授業ではタブレット端末やプロジェクターを活用し、正しい体の動かし方の習得を目指した。	3 ・新春駅伝大会では多くの生徒が参加し、元気な姿を見せて指導の成果を目の当たりにしました。 ・生徒たちが自主的に練習できる時間を作る事が大切。画像を確認するのも良い方法だ。 ・基礎体力の向上は、生徒本人のやる気が一番大事なことで、取り組んでいただいていることは素晴らしいです。 ・部活動に関して、先生方の負担にならによくな環境を整える必要があると感じる。小学生のうちは、家庭の事情などでスポーツ教室やクラブチームに入れず、中学校での部活動を楽しみにしている児童も多い。外部指導員等を採用して、生徒が多く経験をしたり活躍したりできる場を整えてほしい。	3 B ・部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるような声かけを行う。失敗体験や成功体験から次へ繋げる気持ちのもって行き方を考える。						
豊かな心	多様な価値観の中で自身の判断力を磨き、心豊かに主体的に正しい判断をし行動できる人格の育成を目指す指導の充実	正しく判断し行動できる力の育成	生徒の心に寄り添う丁寧な生活指導や道徳教育を充実させる	4 自己評価4段階平均値3.4以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.2以上 1 自己評価4段階平均値3.2未満	4 90%以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答 3 80%~90%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答 2 70%~80%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答 1 70%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答	4 ・授業前や休み時間、給食準備の時間には教室や学年の廊下にいるようにし、生徒が小さなことでも話しやすく、生徒の異変に気づきやすい環境づくりを行なった。道徳科の授業では、生徒が自分で捉えられるような道徳科の授業を行うことができた。	4 ・生徒に対し日常的に目配りし、授業以外でも先生方が対応していく感心します。昨年も指摘しましたが、先生方も休憩が十分とれる等ゆとりが有っても良いと思います。 ・生徒との距離を短くする事は大事で良い意味の監視になると思われる。 ・教師のコミュニケーション力が問われる取組みですね。授業を参観させていただきましたが、笑顔で話をされていて、生徒が活発に発言されました。 ・先生方は明るく生徒に接し、生徒が相談しやすい環境づくりをされている。道徳の授業では、時代に合った身近な題材をテーマとし、日常生活に生かすことができるよう考えられていました。 ・生徒の様子を見守る先生方の対応が、休み時間や給食の準備の時間まで渡っているのは、本当に頭が下がる思いです。引き続き、生徒の些細な変化に気づき、学年内で共有し、風通しのよい環境づくりをお願いいたします。道徳の授業は、子どもたちの生きる力を培う指導がなされている印象を受けました。参観させていただいて、先生方それぞれのご指導は、どれも工夫されているを感じることができました。	A ・生徒とのコミュニケーションを積極的にとることができた。引き続き生徒の様子をよく観察していく。どの生徒とも全力で向き合うことを意識する。								
						4 自己評価4段階平均値3.6以上 3 自己評価4段階平均値3.5以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	4 4 90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答 3 80%~90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答 2 70%~80%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答 1 70%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答	4 ・教科授業内や道徳科や特別活動などでは様々な小グループによる意見交換を行い、意識的に他者の考えに触れる機会をつくるようにした。委員会では生徒の意見を汲み取り、取り組みを企画した。	4 ・思いやりの心をもって行動できる生徒が多いことは頼もしい限りです。グループによる意見交換では多くの生徒が発言できていますか。 ・小グループごとの授業はいろいろな生徒が意見を出しやすく良い方法である。 ・多様な価値観を持った両親の元、生徒も育ちスマホ等からの情報が氾濫している中、生徒が自動的に正しい判断が出来るのは大変な時代の中での取組みに挑戦されていることは素晴らしいです。 ・小グループでの意見交換の時間には、ほとんどの生徒が周囲の友達と考えを伝え合うことができている。また、その考えを躊躇なく学級で発表することができる環境が整えられている。	4 A ・行事委員会や専門委員会では、生徒が自分たちで作り上げたという達成感や実績を得られるように、意見を具現化し、新しい取り組みにつなげていく。						
						4 自己評価4段階平均値3.1以上 3 自己評価4段階平均値3.0以上 2 自己評価4段階平均値2.9以上 1 自己評価4段階平均値2.9未満	4 4 90%以上の生徒が体力が身に付いてきたと回答 3 80%~90%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答 2 70%~80%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答 1 70%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答	3 ・部活動において、他の顧問や保護者との連携を取りながら、個々にあった練習を行い、チーム全体の能力を高めた。 ・保健体育科の授業ではタブレット端末やプロジェクターを活用し、正しい体の動かし方の習得を目指した。	3 ・新春駅伝大会では多くの生徒が参加し、元気な姿を見せて指導の成果を目の当たりにしました。 ・生徒たちが自主的に練習できる時間を作る事が大切。画像を確認するのも良い方法だ。 ・基礎体力の向上は、生徒本人のやる気が一番大事なことで、取り組んでいただいていることは素晴らしいです。 ・部活動に関して、先生方の負担にならによくな環境を整える必要があると感じる。小学生のうちは、家庭の事情などでスポーツ教室やクラブチームに入れず、中学校での部活動を楽しみにしている児童も多い。外部指導員等を採用して、生徒が多く経験をしたり活躍したりできる場を整えてほしい。	3 B ・部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるような声かけを行う。失敗体験や成功体験から次へ繋げる気持ちのもって行き方を考える。						
						3 自己評価4段階平均値3.6以上 3 自己評価4段階平均値3.5以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	3 4 90%以上の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答 3 80%~90%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答 2 70%~80%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答 1 70%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答	3 ・手洗いなど基本的な感染症予防についても呼びかけを行うことができた。また、保健給食委員の生徒を中心として、学校全体の衛生管理に目を向けることができた。	3 ・インフルエンザが蔓延するなど大変ですが、感染症には十分注意するよう指導お願いします。 ・養護教諭から直接生徒に話しかける機会があれば良いと思う。 ・コロナ以降、世の中全体が衛生や健康教育が成熟してきてるので、取り組みやすいと思います。地域として生徒と、夏祭り・防災訓練・運動会・ちつき大会等、ボランティアに大勢が参加いただき、その中で安全についてともに行動できました。 ・校舎内は衛生管理が行き届いており、清潔感がある。 ・地域の方達と関わる機会が多くとても良いと思います。	3 B ・地域合同防災訓練、セーフティ教室、不審者訓練、薬物乱用防止教室、がん教育、救命救急講習などの行事では地域の方やゲストティーチャーの協力を得て健康安全に関する理解を深める。						
						3 自己評価4段階平均値3.7以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.5以上 1 自己評価4段階平均値3.5未満	3 4 90%以上の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答 3 80%~90%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答 2 70%~80%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答 1 70%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答	3 ・進路面談や進路説明会で進路情報の共有を図り、生徒の進路希望に沿った面談を行なった。 ・三者面談を活用し、生徒一人一人に寄り添い、現在の様子と今後の生活について話し合うことができた。	3 ・生徒本人より、保護者が進路等に心配不安を抱えていることが多いよう思います。三者面談などを通じ不安を取除けるよう指導お願いします。 ・進路面談や説明では地域の人たちの活用をもっと取り入れることは大事である。 ・進路については、生徒自身が自分の進路希望を自主的に持てるよう、2年生の夏が重要な時期と思っています。	3 B ・中3での進路選択が春から自分のこととして受け止められるように、中1・2年の頃から職業調査や上級学校調べ、職場体験などを通じ、勤労や学習に対する意欲や目的意識を育てていく。						
輝く未来	自己を見つめ自らの生き方を考え、変化の著しい社会を生き抜く力を身に付ける生涯学習の視点からの進路指導の充実	進路指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、親切丁寧な進路指導を実施する	4 自己評価4段階平均値3.7以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.5以上 1 自己評価4段階平均値3.5未満	4 70%以上の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答 3 60%~70%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答 2 50%~60%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答 1 50%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答	3 ・進路面談や進路説明会で進路情報の共有を図り、生徒の進路希望に沿った面談を行なった。 ・三者面談										

令和6年度

清泉中学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	人権尊重の精神を基調として、社会において信頼される人間性豊かな生徒の育成を目指す 豊かに、たくましく そして 創造的に	【目指す学校像】 生徒にとっても教職員にとっても、さらには家庭・地域にとっても「楽しく」、「学び、集いあえる」学校 1、学校は「成長を実感できる場」 2、学校は「自己実現できる場」 3、学校は「夢や機能をはぐくむ場」 4、学校は「安心して安全に生活できる場」 5、学校は「意外性」と「多様性」を生かしていく場 【目指す児童・生徒像】 「豊かに、たくましく そして 創造的」な生徒 【目指す教師像】 【15歳の生徒の姿に責任をもつ教師】1、生徒一人一人を大切にする教師 2、1時間1時間の授業を大切にする教師 3、生徒・家庭・地域から信頼される教師 4、「和」を重んじ、チームのために自己の力を発揮できる教師 5、清泉中を愛する教師	ビジョン

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得 思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の向上を図る。	指導方法の工夫改善 生き抜いていくための基礎・基本の力の定着	・「何のために」を生徒と教師が共有した指導の実施 ・板書、課題提示など誰にとっても分かりやすい授業の実施 ・自主勉強会の実施 ・1人1台タブレットを使用した家庭学習の実施	4:自己評価4段階平均値3.8以上 3:自己評価4段階平均値3.6以上 2:自己評価4段階平均値3.4以上 1:自己評価4段階平均値3.4未満	4	4:90%以上の生徒が肯定的な回答 3:80%以上の生徒が肯定的な回答 2:70%以上の生徒が肯定的な回答 1:70%未満の生徒が肯定的な回答	3	・教科担当者は、ねらいの提示、モニターの活用、板書等工夫を行っている。	・学習への取組がこれからの教育となっている。 ・学校公開の授業の参観での様子から教員も授業改善への努力をしている。	B	・今年度実践した社会に開かれた学びの分析を行い、生徒の学びを深める指導を行う。
				4:自己評価4段階平均値3.5以上 3:自己評価4段階平均値3.3以上 2:自己評価4段階平均値3.1以上 1:自己評価4段階平均値3.1未満	4	4:80%以上の生徒が肯定的な回答 3:65%以上の生徒が肯定的な回答 2:50%以上の生徒が肯定的な回答 1:50%未満の生徒が肯定的な回答	4	・自主勉強会は、1月からの実施であり、年間をとおして実施し、学習環境を整備していく。 ・家庭学習のタブレット使用の頻度が、学年によって異なっている。	タブレットや複数教材を見つける場合は、生徒によく分からぬら工夫が必要。積極的に授業に参加できることが増えれば、効果的である。	A	・自主学習教室を年間で計画的に実施する。 ・タブレットを使った家庭学習の研究を行い、生徒の家庭学習の定着を図る。
				4:自己評価4段階平均値3.5以上 3:自己評価4段階平均値3.3以上 2:自己評価4段階平均値3.1以上 1:自己評価4段階平均値3.1未満	4	4:80%以上の生徒が肯定的な回答 3:70%以上の生徒が肯定的な回答 2:60%以上の生徒が肯定的な回答 1:60%未満の生徒が肯定的な回答	4	・生徒同士の意見交流の設定をする事が増えた。校内研究後、教員が「生徒が主体的に活動する行事について、考える機会が増えた。	・教員間で横断的に研究している。 ・自らの考えを大切に既習事項や経験を充実に実践して、生徒の評価が高め。特定教科のみならず教科横断型授業により教科間の相互理解のもと、多くの教科の評価向上につなげる。	A	・各教科の特性を踏まえ、他の考え方を基に自らの考えを深化させる授業の工夫改善を行う。
豊かな心	落ち着いた学校生活の実現を図るとともに、自尊感情や自己肯定感を高め、豊かな心の育成を図る。	規範意識のある自己肯定感、自己有用感の醸成	・ルールを生徒自らが考え、つくり守る指導の充実 ・自分のよさや強みを発揮する自治的活動の充実	4:自己評価4段階平均値3.8以上 3:自己評価4段階平均値3.6以上 2:自己評価4段階平均値3.4以上 1:自己評価4段階平均値3.4未満	3	4:90%以上の生徒が肯定的な回答 3:80%以上の生徒が肯定的な回答 2:70%以上の生徒が肯定的な回答 1:70%未満の生徒が肯定的な回答	3	・行事をとおして、生徒自らが、ルールについて再考する場があった。教員も生徒の活動の支援が増えた。	・教員から生徒が自主的に考える声かけを実施。 ・生徒保護者にとって学校が安心安全な場所と捉えている。 ・生徒アンケートで学校の話し合いを生かして自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる項目が高く評価できる。	B	・今年度の取組を定着させ、生徒が自身のよさを意識する場を設定する。
				4:自己評価4段階平均値3.8以上 3:自己評価4段階平均値3.6以上 2:自己評価4段階平均値3.4以上 1:自己評価4段階平均値3.4未満	4	4:80%以上の生徒が肯定的な回答 3:70%以上の生徒が肯定的な回答 2:60%以上の生徒が肯定的な回答 1:60%未満の生徒が肯定的な回答	3	・生徒会が中心となって、生徒が企画する機会が増え、学年行事等で、生徒が企画する場面が増えた。	・学級活動は、多くの生徒が意志をもって活動している。 ・清泉中じめサミットは小学校を含めた晴らしい取組である。今後も継続することが大切。 ・生徒は充実した活動をしている。	A	・生徒会が中心となって活動する場を増やし、主体的に活動することへの充実を図る。
				4:自己評価4段階平均値3.5以上 3:自己評価4段階平均値3.3以上 2:自己評価4段階平均値3.1以上 1:自己評価4段階平均値3.1未満	3	4:80%以上の生徒が肯定的な回答 3:65%以上の生徒が肯定的な回答 2:50%以上の生徒が肯定的な回答 1:50%未満の生徒が肯定的な回答	4	・生徒は学校生活に対して楽しく過ごしているかの質問に肯定的な回答が96.4%であった。道徳科の授業を中心として、人権教育が実施できている。	・授業の中で、生徒は道徳的な価値観を身に付けている。 ・生徒は道徳の授業や学級活動を中心、「自分事として考える」機会を増やす。	A	・道徳の授業や学級活動を中心、「自分事として考える」機会を増やす。
健やかな体	心身ともにたくましく、健やかな生徒の育成を図る。	個に応じた体力の向上	・体育の授業や部活動、行事などを通じて体を動かす・楽しさを感じる機会の拡大	4:自己評価4段階平均値3.8以上 3:自己評価4段階平均値3.6以上 2:自己評価4段階平均値3.4以上 1:自己評価4段階平均値3.4未満	4	4:80%以上の生徒が肯定的な回答 3:70%以上の生徒が肯定的な回答 2:60%以上の生徒が肯定的な回答 1:60%未満の生徒が肯定的な回答	3	・体育委員会を設置し、昇星みの体育館開放や学年クリエーションなどを設定し、多くの生徒が参加できている。	・個に応じた体力の向上に関しては、運動することの苦手意識があつたり、運動することが嫌いな生徒に対して、体育科を中心にアプローチの方法を検討する必要がある。	B	・今年度の活動をふりかえり、来年度も継続して体育委員の活動を支援していく。
				4:自己評価4段階平均値3.8以上 3:自己評価4段階平均値3.6以上 2:自己評価4段階平均値3.4以上 1:自己評価4段階平均値3.4未満	3	4:80%以上の生徒が肯定的な回答 3:65%以上の生徒が肯定的な回答 2:50%以上の生徒が肯定的な回答 1:50%未満の生徒が肯定的な回答	4	・自己の生活を振り返りよくしたいという肯定的な意見がどの学年も85%以上であり、生徒の主体的な活動が定着してきた。	・スマートフォンの普及により外で遊ぶ機会が減っているため、体を動かす習慣をつける。	B	・「なぜ」(理由)を明確に示していく。生徒の強み、アクセス評価を重視し、生徒の自信を育む指導を行う。
				4:自己評価4段階平均値3.5以上 3:自己評価4段階平均値3.3以上 2:自己評価4段階平均値3.1以上 1:自己評価4段階平均値3.1未満	3	4:80%以上の生徒が肯定的な回答 3:70%以上の生徒が肯定的な回答 2:60%以上の生徒が肯定的な回答 1:60%未満の生徒が肯定的な回答	2	・1年74.4%、2年60.8%3年73.8%となつた。学校としては、保健便りでの意識啓発、献立コンテストによる学びを活用する機会を設定した。献立コンテストが給食の献立にも採用され、食育への関心が高まり、効果的な取組であった。	・生徒が好きな給食や食卓に出てくる食べ物を写真や動画を用いて発表せるような取り組みの提案。 ・生徒の食への意識が高まる献立を立てる。 ・献立コンテストの取組は生徒に食育を考える良い機会である。 ・食に関する感じ方は、人それぞれである。	B	・給食主任を中心給食、お弁当の日をとおして、生徒の考えを生かした取組の充実を図る。
輝く未来	生徒一人ひとりの夢と希望を育むために、3年間の見通しに立った進路指導の実現を図る。	キャリア教育の推進	総合的な学習の時間を通じて、自らの生き方を考え、自己決定していく指導の実施	4:自己評価4段階平均値3.8以上 3:自己評価4段階平均値3.6以上 2:自己評価4段階平均値3.4以上 1:自己評価4段階平均値3.4未満	4	4:80%以上の生徒が肯定的な回答 3:70%以上の生徒が肯定的な回答 2:60%以上の生徒が肯定的な回答 1:60%未満の生徒が肯定的な回答	4	・地域の協力のもと、職場体験を実施した。また、SDGsとも関連し、生徒が自らの生き方を考えた。	・自身の将来について考えさせる機会は中学生の早い段階から考えさせることは最も重要である。その際に外部人材や地域の教育力を生かした進路行事は生徒にとっても大切な指標となる。 ・生徒の自治活動が増えている。	A	・総合的な学習をとおして、生徒自らが、生き方について考え、自己決定の機会を設定する。
				4:自己評価4段階平均値3.8以上 3:自己評価4段階平均値3.6以上 2:自己評価4段階平均値3.4以上 1:自己評価4段階平均値3.4未満	3	4:90%以上の生徒が肯定的な回答 3:80%以上の生徒が肯定的な回答 2:70%以上の生徒が肯定的な回答 1:70%未満の生徒が肯定的な回答	3	・生徒は80%以上の回答であり、自身の進路について考える機会が設定されている。	・丁寧な進路指導や、考えの聞き取りは、今後の進路を考える上で、貴重な体験になると思う。保護者も大切に思っている。	B	・学習進路部を中心に全学年の生徒、保護者に進路に関する情報の発信をわかりやすくするため、ホームページ等の活用を図る。
				4:自己評価4段階平均値3.5以上 3:自己評価4段階平均値3.3以上 2:自己評価4段階平均値3.1以上 1:自己評価4段階平均値3.1未満	4	4:80%以上の生徒が肯定的な回答 3:70%以上の生徒が肯定的な回答 2:60%以上の生徒が肯定的な回答 1:60%未満の生徒が肯定的な回答	3	・地域で生徒が活躍する場を見つけ、生徒にその機会を提供した。参加した生徒たちは活動をとおして自己有用感を高めている。	・日々自分の好きな物を探す練習をする。心が楽しくなる事を見つける。 ・ボランティア活動は、地域にとっても、市民としての意識につながる行為である。 ・社会体験の少ない年代に、職場体験は大事です。興味をもって行動に移せるのは、有意義だと。 ・各種団体活動の啓発活動に参加している。	B	・職場体験や地域との連携した活動を推進し、生徒が働く事への意義の理解と喜びを知る教育への支援を行う。

学校教育目標	勉学 敬愛 至誠 健康	よく考え正しく判断できる人 人を敬愛し愛と慈しみのある人 誠実で責任感の強い人 健康で心身ともにたくましい人	【目指す学校像】	(1)安心して楽しく活動できる学校 (2)生きる力を育む学校 (3)家庭・地域とのつながりを大切にする学校			
			【目指す児童・生徒像】	(1)主体的に学習する生徒 (2)相手のことを考えながら行動できる生徒 (3)共に心身を鍛える生徒			
			【目指す教師像】	(1)生徒と正面から向かい合える教師 (2)豊かな人間性を備えた教師 (3)学び続ける教師			

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本の定着	授業規律の確立	落ち着いた一日のスタートを切るための主体的な朝読書の取組	4 生徒が8:20分には朝読書をするように指導した95%以上達成	4	4 朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ90%以上	3	80%以上取り組んだと回答した生徒の割合は80.4%、生徒が8:20には朝読書をするように指導した80%以上と回答した割合が89.6%であった。8:20前に静かで落ち着いた環境をつくり、生徒の朝読書への取組を習慣化させる必要がある。	A	8:20には担任が教室にいて落ち着いた静かな雰囲気をつくる。支援または指導を要する生徒へ学年体制で対応する。	
				3 生徒が8:20分には朝読書をするように指導した80%以上達成		3 朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ80%以上					
				2 生徒が8:25分には朝読書をするように指導した95%以上達成		2 朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ70%以上					
				1 生徒が8:25分には朝読書をするように指導した95%未満達成		1 朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ70%未満					
		わかる授業、達成感・満足感のある授業の実践	教員が授業始まりに教室でチャイムを聞く実践 95%以上	4 チャイム終了時に授業開始の号令実施90%以上	4	4 着席チャイムが、学期を通して守ることができた90%以上	4	80%以上守ることができたと回答した生徒の割合は91%であった。授業の開始の時間を意識して準備をすることがでている。取組指標、成果指標ともに90%以上と回答する割合が9割を超えるよう、徹底していく。	A	始業チャイム前に教員が教室に入る。授業規律を徹底する。次の授業が空いている教員は休み時間中の廊下の巡回を行う。	
				3 チャイム終了時に授業開始の号令実施80%以上		3 着席チャイムが、学期を通して守ることができた80%以上					
				2 チャイム終了時に授業開始の号令実施70%以上		2 着席チャイムが、学期を通して守ることができた70%以上					
				1 チャイム終了時に授業開始の号令実施70%未満		1 着席チャイムが、学期を通して守ることができた70%未満					
		一単位時間の学び量が豊富な授業の実践	生徒が見通しを持ち、授業で学んだことが分かること実践	4 授業の目標・流れを示し、振り返り実施90%以上	3	4 授業の目標・一時間の流れを示し、振り返りをしていている。90%以上	3	目標・流れを提示していると回答した生徒の割合が87.8%、まとめ・振り返りをしていていると回答した生徒の割合が81.9%であった。取組指標では、85%以上実践と回答した割合が86.2%であった。85%実践の100%を達成し、分かること実践をしていく必要がある。	B	黒板掲示用の「授業の目標」「流れ」「振り返り」カードを使い、全クラス全授業で統一して行う。	
				3 授業の目標・流れを示し、振り返り実施85%以上		3 授業の目標・一時間の流れを示し、振り返りをしていている。80%以上					
				2 授業の目標・流れを示し、振り返り実施80%以上		2 授業の目標・一時間の流れを示し、振り返りをしていている。70%以上					
				1 授業の目標・流れを示し、振り返り実施80%未満		1 授業の目標・一時間の流れを示し、振り返りをしていている。70%未満					
				4 達成感、満足感がある。80%以上	1	4 達成感、満足感がある。80%以上	4	達成感、満足感があると回答した生徒の割合が84.7%、教科の楽しさを感じると回答した生徒の割合が82.6%であった。取組指標では、85%以上実践と回答した割合が86.2%であった。85%実践の100%を達成し、分かること実践をしていく必要がある。	B	週案に翌週までの授業の目標を書き、さらに計画的に授業を進めていく。生徒が何を学んだか振り返る時間を確保する。	
				3 達成感、満足感がある。70%以上		3 達成感、満足感がある。70%以上					
				2 達成感、満足感がある。60%以上		2 達成感、満足感がある。60%以上					
				1 達成感、満足感がある。60%未満		1 達成感、満足感がある。60%未満					
豊かな心	豊かな情操の育成	主体的に規律を守れる生徒の育成	教員・生徒ともに挨拶を主体的に実践及び生徒会活動の活性化	4 生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。100%	1	4 自分から進んでほぼ毎日できている	4	挨拶をしていると回答した生徒の割合は93.4%であった。取組指標において、2学期末の時点で90%以上と回答した割合は72%である。挨拶の習慣は概ね身についていると言えるが、自分から進んで挨拶できるよう指導の充実を図る必要がある。	B	生徒が主体的に挨拶できるよう日々の指導を充実させる。教員からも率先して挨拶を行う。	
				3 生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。90%		3 挨拶をされたときはほぼ挨拶をしている					
				2 生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。80%		2 挨拶ができなかったことが多かった					
				1 生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。80%未満		1 挨拶はほとんどできなかった					
			主体的な清掃活動を充実させるために委員会活動の活性化	4 積極的に行った	4	4 清掃活動を、自ら進んできちんと行った90%以上	2	80%以上行ったと回答した生徒の割合は72%であった。清掃時間が短いこともあり、煩雑になっているところもある。生徒による清掃活動の振り返りと、教員の確認、指導を充実させる必要がある。	B	清掃チェックシートを用いた生徒自身による清掃活動の振り返りを行い、教員による確認、指導を充実させる。	
				3 どちらといえど積極的に取り組んだ		3 清掃活動を、自ら進んできちんと行った80%以上					
				2 どちらかといえど消極的になってしまった		2 清掃活動を、自ら進んできちんと行った70%以上					
				1 消極的になってしまった		1 清掃活動を、自ら進んできちんと行った70%未満					
		主体的に行動できる生徒の育成	行事・委員会・係活動において、主体的に考え行動できるような指導・支援の推進	4 積極的に行った	4	4 行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。90%以上	4	取り組めたと回答した生徒の割合は95.4%であった。自分の仕事に対し、責任をもち主体的に取り組むことはできている。学校をよりよくするためには何ができるかを考え、提案し、主体的に行動できるよう指導、支援を推進していく。	A	生徒が主体となって活動できるように計画を立て、準備をする。	
				3 どちらといえど積極的に取り組んだ		3 行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。80%以上					
				2 どちらかといえど消極的になってしまった		2 行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。70%以上					
				1 消極的になってしまった		1 行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。70%未満					
健やかな体	心と体の健康維持	主体的に健康管理で生きる生徒の育成	主体的な健康管理を推進するための生徒会活動の活性化	4 積極的に行った	4	4 自ら進んで日々の健康管理に努めた90%以上	3	80%以上できたと回答した生徒の割合は81.8%であった。給食前のうがい・手洗いや朝の健康管理などしっかりと行っている。保健委員を中心とした健康管理への啓発活動をより一層活性化させる。	B	保健委員を中心とした健康管理への啓発活動をより一層活性化させる。	
				3 どちらといえど積極的に取り組んだ		3 自ら進んで日々の健康管理に努めた80%以上					
				2 どちらかといえど消極的になってしまった		2 自ら進んで日々の健康管理に努めた70%以上					
				1 消極的になってしまった		1 自ら進んで日々の健康管理に努めた70%未満					
		防災意識の高い生徒の育成	毎回の避難訓練において、防災意識を高める実践	4 積極的に行った	4	4 避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた90%以上	4	80%以上真剣に行ったと回答した生徒の割合は94%であった。無言行動を徹底し、規律のある避難訓練を実施することができている。様々な場面、状況を想定した避難訓練を実施していく。	A	避難訓練の際に無言行動を徹底する。安全指導の指導計画・指導内容を見直し、継続的に指導を実施する。	
				3 どちらといえど積極的に取り組んだ		3 避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた80%以上					
				2 どちらかといえど消極的になってしまった		2 避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた70%以上					
				1 消極的になってしまった		1 避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた70%未満					
輝く未来	自立できる生徒の育成	他者理解を心がけ、人間関係における課題を見つけて、解決していく生徒の育成	行事や学級活動を通して、円滑な人間関係の創出	4 積極的に取り組んだ	4	4 行事・学級活動を通して、思いやりのある行動が取れた	4	取り組めたと回答した生徒の割合は97.4%であった。行事や学級活動において、人間関係の課題に向き合い、協働的に活動する様子が見られた。全教育活動を通じて自分自身を見つめる機会を意図的・計画的に設定していく。	A	全教育活動を通じて自分自身を見つめる機会を意図的・計画的に設定する。道徳の授業やふれあい月間での取組を充実させる。	
				3 どちらといえど積極的に取り組んだ		3 行事・学級活動を通して、どちらといえど思いやりのある行動が取れた					
				2 どちら							

学校教育目標	進んで勉強しよう 思いやりのある人になろう 進んで心身をきたえよう	【目指す学校像】	1子ども達が安心して学び、自己実現できる学校 2個性と能力を伸ばし将来の夢や希望を育む学校 3保護者・地域と連携を図り、信頼される学校
		【目指す児童・生徒像】	1主体的に学び、粘り強く取り組む生徒 2仲間を大切にし、集団としての規律が守れる生徒 3自ら努力し、己を鍛える生徒
		【目指す教師像】	1生徒一人一人の良さを認め、厳しさと愛情を注げる教師 2自己研鑽に努め、組織の一員として力を発揮できる教師 3豊かな人間性を備え、生徒・保護者・地域から信頼される教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本の定着	授業改善推進プランに基づく、わかる授業、達成感・満足感のある授業の実践	授業改善推進プランに基づいた指導計画に位置付け	4 教員の週案提出率100%	2	4 学力調査の平均正答率が都平均から-5ポイント以内	1	学習コンテストの実施により、学習に意欲的に取り組む生徒が増えた。	C	学習コンテストの取り組みを継続し、成功体験を積み重ねさせ、意欲を向上させる。	
				3 教員の週案提出率90%以上		3 学力調査の平均正答率が都平均-7ポイント以内					
				2 教員の週案提出率80%以上		2 学力調査の平均正答率が都平均-10ポイント以内					
				1 教員の週案提出率80%未満		1 学力調査の平均正答率が都平均-13ポイント以内					
		ICT機器を効果的に活用した多様な指導方法の工夫		4 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に努めた100%	4	4 タブレットを活用したわかりやすい学習活動60%以上	4	わかりやすいという回答は79.6%。全教員が効果的な活用ができた。	A	学習効果や意欲を向上させるICT機器の利活用について、更なる教員の能力向上を図る。	
				3 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に努めた90%以上		3 タブレットを活用したわかりやすい学習活動50%以上					
				2 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に努めた80%以上		2 タブレットを活用したわかりやすい学習活動40%以上					
				1 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に努めた80%未満		1 タブレットを活用したわかりやすい学習活動40%未満					
		家庭学習の定着	基礎の定着を図る家庭学習の推進	4 家庭学習への指導を毎週行つた80%以上	2	4 家庭学習の時間が平均1~2時間が60%以上	4	安定的に家庭学習の指導に取り組ませる教科がまだ少ないが、成果が出始めている。	C	意欲に繋がる取り組みや、すい課題の工夫や学習の定着を図る家庭学習となるように工夫する	
				3 家庭学習への指導を毎週行つた70%以上		3 家庭学習の時間が平均1~2時間が50%以上					
				2 家庭学習への指導を毎週行つた65%以上		2 家庭学習の時間が平均1~2時間が45%以上					
				1 家庭学習への指導を毎週行つた65%未満		1 家庭学習の時間が平均1~2時間が45%未満					
豊かな心	豊かな情操の育成	偏見や差別のない豊かな人間性の育成	集団の一員としての自覚をもち、個性を認め、協力し合える生徒の育成	4 「絆づくり」を意識した教育活動を行つた90%以上	4	4 落ち着いて安心して生活できている80%以上	4	互いを認め合い、いじめや差別を許さない指導の徹底により、安心安全を守ることができた。	B	引き続き「絆づくり」の教育活動を推進し、生徒の自治力を高めていく。	
				3 「絆づくり」を意識した教育活動を行つた80%以上		3 落ち着いて安心して生活できている70%以上					
				2 「絆づくり」を意識した教育活動を行つた70%以上		2 落ち着いて安心して生活できている60%以上					
				1 「絆づくり」を意識した教育活動を行つた70%未満		1 落ち着いて安心して生活できている60%未満					
		多様で豊かな教育活動による自己有用感の醸成	学級満足度調査の活用による、生徒の良さを發揮できる教育活動の実践	4 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行つた100%	4	4 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた80%以上	4	勇気づけ言葉の実践により、生徒に自信と責任感をもたせ、主体的な活動ができた。	A	教員による勇気づけ言葉を手本として示し、生徒にもよい言葉掛けの力を付けさせる。	
				3 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行つた90%以上		3 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた70%以上					
				2 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行つた80%以上		2 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた60%以上					
				1 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行つた80%未満		1 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた60%未満					
		他者理解を心掛け人間関係における課題を見付け解決していく生徒の育成	学級活動・行事・生徒会活動・部活動等における円滑な人間関係の構築	4 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行つた100%	4	4 行事、学級活動を通して思いやのある行動がとれた80%以上	4	学校生活の中で、一人一人が自分の役割を自覚し、協力し合う取り組みができた。	A	生徒自身がよりよい人間関係の構築のための課題に気付き、解決する力を育成する。	
				3 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行つた90%以上		3 行事、学級活動を通して思いやのある行動がとれた70%以上					
				2 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行つた80%以上		2 行事、学級活動を通して思いやのある行動がとれた60%以上					
				1 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行つた80%未満		1 行事、学級活動を通して思いやのある行動がとれた60%未満					
健やかな体	心と体の健康維持	自ら健康管理のできる生徒の育成	主体的な健康管理を推進する指導の実践	4 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ90%	3	4 自ら進んで日々の健康管理に努めた90%以上	4	学年が上がるにつれ、生活習慣が乱れる傾向があるが、感染症対策には意識が高い。	A	SNSの利用時間をコントロールし、適切な睡眠時間を確保できるように指導を行う。	
				3 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ80%以上		3 自ら進んで日々の健康管理に努めた80%以上					
				2 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ75%以上		2 自ら進んで日々の健康管理に努めた70%以上					
				1 生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ75%未満		1 自ら進んで日々の健康管理に努めた70%未満					
		多様で豊かな教育活動による自己有用感の醸成	正しい行動選択ができるようにするための避難訓練、セーフティ教室の実施	4 安全教育・予防指導の徹底に努めた90%以上	4	4 学んだ知識を生活によく生かしている50%以上	4	実践的な訓練を繰り返し、指示がなくとも退避行動がとれるようになった。	A	訓練を生徒の成長を促す機会として捉え、自己防衛力、生存スキルを更に身に付けさせる。	
				3 安全教育・予防指導の徹底に努めた80%以上		3 学んだ知識を生活によく生かしている40%以上					
				2 安全教育・予防指導の徹底に努めた70%以上		2 学んだ知識を生活によく生かしている30%以上					
				1 安全教育・予防指導の徹底に努めた70%未満		1 学んだ知識を生活によく生かしている30%未満					
		体力向上に向けた教育活動の推進	体育の補教運動、昼休みの校庭開放、部活動等の運動習慣の育成	4 運動に親しむ取り組みを行つた80%以上	3	4 学校でたくさん体を動かしている50%以上	4	たくさん身体を動かしている生徒72.6%。運動に適した気温になったことが大きいと考える。	A	自分の体力レベルを把握し、向上を目指す指導を継続する。	
				3 運動に親しむ取り組みを行つた70%以上		3 学校でたくさん体を動かしている40%以上					
				2 運動に親しむ取り組みを行つた60%以上		2 学校でたくさん体を動かしている30%以上					
				1 運動に親しむ取り組みを行つた60%未満		1 学校でたくさん体を動かしている30%未満					
輝く未来	自主自律の精神の育成	自己の将来を切り拓く力の育成	自治的な学級活動、生徒会活動、部活動の実施	4 生徒が主体的に課題解決できるように指導した80%以上	4	4 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う80%以上	4	次の世代の新しいリーダーを発掘し、生徒の課題解決能力の育成に教員も尽力した。	A	生徒主導で企画・運営を行い、更に責任感や問題解決能力を養う体験を充実させる。	
				3 生徒が主体的に課題解決できるように指導した70%以上		3 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う70%以上					
				2 生徒が主体的に課題解決できるように指導した60%以上		2 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う60%以上					
				1 生徒が主体的に課題解決できるように指導した60%未満		1 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う60%未満					
		自身の変容や成長を自己評価する取り組みの充実	行事や学期ごとのキャリア・パスポートの活用	4 キャリア・パスポートの活用ができた90%以上	1	4 自分の得意なことを考えることができた80%以上	4	行事の取り組みや学級活動を振り返る中で、自分の良さや成長に気づくことができた。</td			